
ーキバ/ファイズ!ウルトラマンガイア!!スイートプリキュア 復活?魔界の王と光輝く願いのメ

R x P

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

劇場版！仮面ライダーキバノファイズ！ウルトラマンガイア！！
スイートプリキュア 復活？魔界の王と光輝く願いのメロディー

【Nコード】

N5138Y

【作者名】

R x P

【あらすじ】

キバの世界に戻りアークの封印状況を調べる渡
プリキュアの世界に突然現れたレジエンドルガと対人する狼たちと
響たち

そして光を手にする狼！その光の意味とは？
今！全てのアナザーワールドの世界の音楽を守る為ライダーとウル
トラマンそしてプリキュアが力を合わせ戦う！

戦いの始まり！（前書き）

いよいよ劇場版スタートです！
ではキバってSTARTUP！

戦いの始まり！

ここはキバの世界にとある森の中！仮面ライダーキバこと紅渡はエンペラーフォームとなりレジエンドルガの手下となったファンガイアと戦っていた！

キバEF「はあく！やあ！」

ザンバットソードで切り裂く！

手下「ぎゃあああ！」

手下達が全員爆死して消滅した。

キバEFは（ふう）と言い変身を解消する。

キバット「全くレジエンドルガのヤツ！ファンガイアを利用しやがって！」

タツロツト「でも何故でしょうか？」

渡「色々調べてみよう！兄さんも調べているはずだから！それには口論してる場合じゃない！アークが再び目覚めてしまいその日から！それに音吉さんも心配だ！」

キバット達をつれて一同は「素晴らしき青空の会」の溜り場でもある喫茶「カフェ・マル・ダムール」に向かった。

この時、月で異変が起き始めているとは気づかず…

その頃名護たちはレジエンドルガの事について調査をしていて一般人や一般のファンガイアに聞いて回っておりちょうど有力な情報を調査隊員のファンガイアと話していた。

名護「すると君はあの建物で見たのか？」

ボロボロの古いマンションを指差してファンガイアに聞く。

ファンガイア「はい間違いないですよ名護さん！あそこを根城にしているみたいです。」

恵「だつたら！」

健吾「突入やな！」

名護「突入準備しろみんな！」

隊員「了解です！隊長！」

名護たちはイクサナツクルを手に当て変身する

【レディ！】

全員「変身！」

【フィスト・オン】

イクサに変身して建物に突入する！

中には復活したレジエンドルガと新たなレジエンドレガであるイエティレジエンドルガ、グールレジエンドルガ、マミーレジエンドルガ、ガーゴイルレジエンドルガ、マンドレイクレジエンドルガ、メデューサレジエンドルガがいて他の世界へと繋がるオーラが発生していた！

ライジング「レジエンドルガ達！そこまでだ！」

イエティ「なんだ？おまえら？」

マンドレイク「あいつらは俺達に任せろ！」

メデューサ「早く行って！王を復活させるにはあの方の協力が必要なのだから！」

イエティ「ちえ！わかったよ行って来るぜ！行くぞ相棒！」

グール「…わかった…」

オーラに入って消えるイエティ達

健吾イクサ「まちやがれ！うわ！」

包帯が飛んできて邪魔をする

マミー「行かせんぞ！」

ガーゴイル「おめえ達は通さないぜ！」

ライジング「くっ！」

名護たちはレジエンドルガと対人する！

遂に世界中の音楽を守る戦いが始まったのだった！

戦いの始まり！（後書き）

次回はファイズ&プリキュアサイドです！おたのしみです！

敗北するファイズ達！そして失う仲間！（前書き）

今回はかなり暗い話になります。本当はお気に入りの彼を戦死せたくはありませんでしたが：人数を減らす為仕方ありません！後グールとの会話などを追加しました。
ではキバってSTARTUP！

敗北するファイズ達！そして失う仲間！

場面が変わりここはプリキュアの世界！

この町の中央広場では丁度ファイズ達とプリキュア達が先ほど到着した二体のレジエンドルガとの戦いが始まっていた。

ファイズBF「おまら…何者だ！！」

メロディ「うゝ不気味ね！」

カイザ「初めて見る敵だがこいつはやばそうだな！みんな気づける！！」

リズム「あなた達！目的は何なの！」

互いに周りながら構えながらリズムが聞く！

イエティ「ふん！決まっているだろ？ノイズ様を復活させる為邪魔なお前らを倒す事だ！グール！おめえはプリキュア共をやれ！俺はライダーを殺る！後ファルセット！おめえ達は休んでな！」

サイガ「ああ！じゃあ頼むよ！」

グール「…わかった…任せろ…」

そう言った途端二体は地面を思いっきり蹴って一気にメンバーに接近する！

ファイズBF「はっ速い！うわああ！」

カイザ「ぐわああ！」

デルタ「ああああ！」

三人まとめてイエティに殴られ吹き飛ばされ壁に「ズドゥん！」と突っ込み建物に入る！

メロディ「みんな！」

グール「…処刑！…」

グールも鋭い爪を伸ばし四人に切りかかる！

ビート「危ない！ビートバリア！」

【ガギン！】

間一髪でビートバリアで逃れた。だが

グール「…無駄…」

さらに加速しバリアに爪で無暗に？連続攻撃を仕掛ける！

【ガキーン！ガキーン！ガキーン！】

ビート「そんな攻撃じゃ私のバリアは壊せないわ！」

それでも同じように攻撃を繰り返すのでミューズは疑問を持ち始めた
ミューズ「おかしい！攻撃が効かないのは向こうもわかっているはず！一体何故なの？…まさか！！」

ミューズはすぐにビートに言う

ミューズ「ちがうわビート！あいつ無暗に攻撃してない！目的はバリアを破壊する事なのよ！！」

ビート「え？どういう？…えっ！！」

【パライイイン】

言ってるいる最中にバリアが破られてしまった！

ビート「そんな！！バリアが」

ミューズ「アイツは正確に同じ個所に攻撃していたのよ！！」

なんとグールはミューズの言う通り無暗に攻撃していたのではなく
正確に同じ個所を攻撃していたのだ！

グール「バリアにも弱点はある…正確に同じ個所を攻撃すれば…破壊…可能！」

今度は口を開け牙を伸ばし

グール「…頂きます！」

そのまままずミューズに襲いかかる！

ミューズ「きゃあああ！」

逃げ回るミューズ！

メロディー「ミューズ！あつ足が！」

ミューズ以外はいつの間にかグールが放ったネバネバする唾液がメロディー達の足を捕らえて動けなくなっていた！

リズム「なによこれ！」

ビート「うっ動けない！！」

必死に足を動かすが全く動かなかった！

グールがミューズに迫り遂に壁際に追い詰められ大ピンチになる！
ミューズ【誰か！助けて！！】
思わず目をつぶった正にその時！

【ヒューン！コッソソ！】

石が突然投げられてグールが一瞬振り向いた隙に誰かがミューズをお姫様だつこで抱え高いビルに超人的なジャンプ力で屋根の上に助けた！

？「無事か？」

ミューズ「あつ！海さん！」

海だつた！

メロディー「今まで何所に行ったのよ！」

驚きながら講義する。

海「町中の人々を逃がしていた！そのレジェンドルガ達の気配を感じたからな！」

どうやら海は敵の気配を感じる事が出来るらしい…

グール「…貴様…何者だ！」

海「俺は藤宮^{ふじみや}海^{かい}！またを海^{かい}の力を持つ男だ！」

相手を睨みつけ堂々と言う。

グール【藤宮 海？…アーク様から聞いた事ある名前…確か…ライダーだつたな…】

一方のミューズは真つ赤になり言う

ミューズ「…いつい加減降ろしてくれる？はっ恥ずかしいわ！」

海は黙って降ろしグールを睨みつけながら言う

海「おまえ！グール伝説の元になったレジェンドルガだな？」

グール「ああ…その通りだ…」

リズム以外？になる

メロディー「グール伝説？」

ビート「なにそれ？」

海「人を襲って食べたりする伝説の怪物のことだ！」

リズム「本で見た事あるわ！たしか神話やイスラム教で出てくる怪

物よね？」

海「ああ！だがオリジナルはこいつだ！こいつに噛まれた人間はゾンビになるってキバット二世さんが言っていた！」

メロディ「なるほど！だから町の人々を！」

納得するメロディ

グール「ほう！…随分…詳しいな…しかもキバットからか…」

海「ああ！もつとも彼は先代のキバから聞いたらしいが…」

そう言いながらアグレイターを構え言う

海「それにお前の弱点も聞いておいたからな！覚悟しろ！」

グール「？どういう…？」

アグレイターが回転して展開する

海「アグルウウウウ！！！」

眩い光と共に叫びアグルに変身する！

グール「うわああああああ！まぶしいいいい！」

苦しみ喘ぐグール

メロディ「もしかしてコイツ！」

リズム「光に弱い？」

アグル【ああ！こいつは聖なる光と炎に弱いんだ！】

変身し終えたアグルはそう言い地面に向かって思いっきりパンチする！

アグル「デユワ！」

地面が割れプリキュア達も解放される！

ビート「ありがとうアグル」

アグル【礼はいい！君達は必殺技の体制に入れ！こいつを倒すには俺達の力を合わせるしかない！】

ミュージも降りて来て

四人「わかったわ！」

それぞれの必殺技のアイテムを召還し構える！

メロディ「奏でましよう奇跡のメロディ〜！ミラクルベルティエ

！おいでミリー！」

リズム「もう少しだったのに〜!!」

驚愕するプリキュア達

グル「はぁ!はぁ!はぁ!【まさかライダー以外の力を持っていたのか
…!】覚えてる…アグル…」

苦しそうにしながらも床に爪を立て砂煙を起して消える

アグル【まで!ぐ!!】

アグルは跪き輝いて海に戻る!

海「まさかここでエネルギー切れなんてな…すまない俺の責任だ!
くっ!」

苦い表情になりながら言う

ミューズが近寄って立たせながら言う

ミューズ「仕方ないよ海さん!それより!」

ビート「狼くん達大丈夫かしら?」

心配し急いで壁が破壊された建物に向かう

一方のファイズたちは?

ファイズBF「うおおおおおおおおお!」

イエティ「おおおおおおおおお!」

ファイズBFはなんとか立ち上がってイエティ相手に激しいパンチ
やキックのラッシュでお互いを攻撃しまくっていたが遂にファイズ
BFが力負けして強烈なパンチで吹き飛ばされてしまった!

ファイズBF「グハア!グホ!グホ!」

再び壁に激突しマスクの中で血を思いつきり吐いてしまう狼!

イエティ「どうした?その程度か?」

ファイズBF「まだだ!!」

ファイズBF何とか立ち上がり、

【5214 ENTER】
のコードを入力して

【Faiz Blaster Discharge】

ブラッディ・キャノンを起動させ、さらに

【103 ENTER】

のコードを入力し

【Blaster Mode】

ファイズプラスター／フォトンバスターモードを構えボタンを押す
！！

【Exceed Charge】

ファイズBF「喰らえ！！フォトンバスター フルプラスト！！」

イエティに向けて凄まじい銃撃を開始する！！

ファイズBF「うおおおおお！！！！」

【ガガガガガガガガ！ズドゥン】

【ドツカゥン】

大爆発が起こる！！

ファイズBF「どうだ！！なっ！！」

なんとイエティはあれだけの銃撃を全て耐えていて為ほとんど無傷
だった。

イエティ「ああ！くすぐったい攻撃だったな！おら！！」

パンチがファイズBFに当たり倒れるファイズBF！

狼【ここまでか！！くそう！！！】

イエティ「さてトドメを…うん？」

【ビューン！ビューン】

狼に迫っていたイエティの肩に光弾が当たる！それは立ちあがって
互いに銃を構えたカイザとデルタが撃った物だった！

カイザ「やらせるか！」

デルタ「次は僕たちが相手だ！」

するとイエティは苦笑して…

イエティ「くくく！いいだろう！まずは…お前達から殺ってやる！」

そう言うと同時に一瞬で消えてしまう！

カイザ「またか！うわあ！」

吹き飛ばされ壁にめり込み気絶するカイザ！

カイザ「うゝん?!」

デルタ「成二さん! いったいどこから?」

デルタは辺りを見回し銃を構える!すると

イエティ「おせえ!」

腕が鋭いヤリに変化しそのままデルタの前に現れる!

デルタ「なっ!」

イエティ「まずは一匹! 死ね!」

【ドシュ!】

デルタの腹を完全に貫く!

デルタは自分の腹を見てそして相手を見つめ…

デルタ「ぐっ! がはっ!」

ガクリとうなだれ変身が解除される。

ファイズBFはその光景を見て凍りつき絶叫してしまう

ファイズBF「甲オオオオオオオオオ!!!」

イエティはうるさいハエでもつぶしたような顔で腕を甲から引き抜き押し倒す!

【ドサ!】

イエティ「実に弱い奴らだ! あゝあ! なんだか殺る気うせたなゝ! うん? グールの奴も深手受けたのか… 帰るか… オイ! ファルセット! 案内しろ!」

サイガ「ああ! 全員撤退だ!」

サイガは闇の空間を作り敵メンバーは撤退するがファイズBFは放心状態になっていて気づいてもいなかった!

間もなくしてプリキュアチームが到着する!

メロディ「みんな! 大丈夫! ああ! 甲くん!」

リズム「そんな! 甲くん!」

ビート「嘘でしょ! 甲くんが… そんな…」

海「おっおい! 甲!!! しっかりしろ!」

4人は急いで駆け寄るがミューズは何も言えず呆然と立っていた。

甲は天上を見つめて苦しそうに手で腹部を押えていた。

ファイズBFも変身解除しヨロヨロと近づき甲に話しかける

狼「おい！すっかりしろよ！今助けて……」

甲が首を振り言う。

甲「もう……僕は……駄目だ……だから……何も……するな……」

狼「バカヤロウ！絶対助けてやる！」

すぐにフォンでスマートに救急部隊の応援を呼ぶ！

狼「至急きてくれ！重傷一名軽傷一名だ！早く……」

甲「狼……この傷……じゃ……もう……僕は……ぐ……」

苦しむ甲！

海「もう喋るな！これ以上喋ったら……」

また首を振り最後の力で海に向かって

甲「いい……んだ……それと……やっと……会えたね……兄さん……」

そう言った直後彼は灰になり綺麗に消えてしまった！

メロデー「そんな！うつつ……」

リズム「いやよ！甲くん！まだ！まだ！あなたは！あああ……！！！」

プリキュア達も泣き叫ぶ！

狼はフォンを落とし叫ぶ！

狼「甲オオオオオ！！！！うわあああああああああ……」

辺り一面狼たちの絶叫で響きわたる最悪の敗北だった。

続く！

敗北するファイズ達！そして失う仲間！（後書き）

いかがでしたか？

甲よ！君の事は忘れない！さらば！

次回はキバサイドです！お楽しみに

イクサの激闘！そして邪悪なライダーアーク復活！！
（前書き）

いつもより短めです。

ではキバってSTARTUP！

イクサの激闘！そして邪悪なライダーアーク復活！！

場面が変わりここはキバの世界の古ビルの中。

今イクサたちはレジエンドルガ達と激闘を繰り広げていた！

【ズガガガガガガ！！！！ドドドドドドド！！！！】

量産型イクサ達がイクサキャノンノマシンガンモードを連射し四体のレジエンドルガが呼び出した手下のファンガイア達を撃退していたが数があまりに多いので苦戦していた！

Aイクサ「く！数が多い！」

B「怯むな！名護隊長も頑張っているんだ！攻撃の手を辞めずにいけ！」

C「おう！行くぜ」

さらに攻撃を加え頑張る部隊！

一方の名護たちは？

名護はマンドレイクと戦っていた！

ライジング「は！たああ！」

イクサカリバーでマンドレイクを一刀両断で倒す！

ライジング「イクサ！爆現！！」

太陽と共に切り裂きマンドレイクは倒れながら

マンドレイク「ぎゃああ！俺！今回も活躍これだけ……？」

すまんマンドレイク！君！原点でも出てきて数秒で撃沈していたから！（笑）

マンドレイク「マジすか……！ナレ……ション！ぎゃああああ！アーク様に栄光あれ……！」

爆死してそのままエナジーが飛んで行く！

ライジング「今のは一体？」

こちらは外の廃墟の地に移動した恵イクサ対メデューサ
恵イクサ「コイツ！」

アローフェッスルを取り出し走り出す！

メデューサ「死ね〜！」

蛇を飛ばして攻撃してくるが恵は怯むことなく走り差し込む！

恵イクサ「これで決める！！はあ〜！」

【イクサ・アローライズアップ！】

恵イクサ「いけ〜！」

強烈なエネルギーの矢が連射されメデューサレジェンドルガを射止める！

メデューサ「くっ！がああ！おっおのれ〜！アーク様！ああ〜！」

爆死しエナジーが飛び出ていった。

恵イクサ「はあはあ！何とか勝ったわ！でも今のは？」

こちらはビルの二階で戦う健吾イクサ対マミーとガーゴイル！

二体相手だったが健吾は勇敢に立ち向かっていた。

健吾イクサ「おりやああああ！！！！」

鍛え抜かれたキックでマミーを蹴り飛ばす！

マミー「ぐお！！！！！」

さらに反動で飛び上がりそのままナツクルフェッスルを入れてガー

ゴイルに向けてブロウクン・ファンクを発動する

健吾イクサ「俺のロック！！！！聴きやがれ！！！！」

【イクサ・ナツクル・ライズ・アップ！】

見事に技が決まり！

ガーゴイル「アーク様バンザ〜イ！ノイズ様バンザ〜イ！ぐあああ

あ！！！！！」

こちらも爆死しエナジーが飛んで行く。

マミーはフラフラと立ち上がり

マミー「く！だが…コレでいい！イクサ達よ！また会おう！」

周りにガスを吐いて消える。

健吾イクサ「待てやコラ！ゴホゴホ」

健吾イクサはガスを吸って咳き込む！！

そしてガスが消えた時にはマミーは完全に姿を消していた。

健吾イクサ「くっ！アカン逃げられてもうたわ！しかしアークはわかるけど…ノイズって誰や？」

健吾イクサはそう考えながら名護たちの下へ集まる

Aイクサ「隊長！手下は何とか撃退しました。」

敬礼して報告する隊員。

ライジング「ご苦労だった。」

Bイクサ「しかしあいづら残りのレジエンドルガ達を一体何所へ送ったのでしょうか？」

ライジング「わからない…だが気になるな！レジエンドルガは倒された時何かエネルギーみたいな物を何所かに送っていたみたいだった。」

マスクの中でしわを寄せて話す。

恵イクサ「私もよ！一体アレは何だったのかしら？」

腕を組み首を傾げる。

健吾イクサ「俺も同じですわ！しかも俺が倒した奴は最後に【ノイズ様バンザイ】って言ってましたよ？意味がわかりませんわ隊長！」

しばらく沈黙し

ライジング「とりあえず一旦本部に戻ろう。それらの事も調べなければならぬ…」

こう言った後名護たちは撤退し始めた。

その頃月では先ほどのエネルギーが集まっていた。そして地面のキバの紋章が砕けちり！！

？「時は満ちた…今こそ…復活の時だああああ！！！！うおおおおおお！！！！」

地面が割れ本来の大きさではなく等身大のアークが出てきたのだ！
アーク「む？これは？そうか…まだキバの力の影響で本来の力が出せてないのか…まあいい…それよりも…」
地球を見つめ言う。

アーク「ノイズもそろそろ目覚めている頃だろうか？あの2人なら既に向こうの戦士共を…うん？」

割れた地面から紫の剣を取り出す

アーク「これは？」

アークが剣を見つめて頃、渡は喫茶「カフェ・マル・ダムール」に入って行っていた。

中では嶋と太牙がコ・ヒーを飲みながら待っていた。

渡「嶋さん！それに兄さん！」

驚く渡！

太牙「待つてたぞ渡！」

嶋「渡くんか…丁度良かった。今太牙から新たなレジエンドルガ達について話していた所だ。」

渡は席に座ってマスターにコーヒーを頼み、太牙から新たな情報を聞き

渡「イエティーにグールか…厄介な奴らだね兄さん…」

太牙「ああ、しかし僕らが力を合わせれば何とか倒せるかもしれない！だから今はアークについて色々調べていた所だ…そうしたら僕の祖父がかつてメイジャーランドとこの世界を守る為封印したことがわかったんだ。それにあの時お前が封印したアークは今かつてより力が増している可能性がある。」

驚く渡！！

渡「そんな！！早く聖なる闇の力を宿したこの剣で奴を倒さないと…世界の音楽が…」

渡はこの世界に戻り闇を極める修行をして正しき闇を入手していたのだ！！

ここで嶋さんの携帯が鳴る

嶋「ちょっとしつれい!!もしもし私だ…なに?外で人々が襲って来る!?!どう言う事だ名護くん?」

名護「原因はおそらく…邪魔するな!!…失礼!!おそらくレジエンドルガの仕業かと!!」

広場で戦いながら会話を続ける名護とメンバー達。

嶋「レジエンドルガに手下にされた人間か…厄介だな…」

嶋はかつての事件を思い出しながら言う。

太牙「嶋さん代わってください!!」

嶋が携帯を太牙に渡す!!

太牙「名護くん!!どんな感じで人々は操られている?」

名護は相手をよく見て…

名護「まるでゾンビみたいに動いていて…首辺りに鋭い歯で噛まれた後がある…くっ!!これ以上は生身で無理だ!!変身!!」

名護達は変身して戦い始める。

ライジング「く!!相手が人間だと戦えない!!」

太牙「グールの仕業だ!名護くん!その人間は既に死んでいる!!」

ライジング「なに!!本当か!!く!!」

会話を聞いていた他のイクサメンバーもコレを聞いて驚愕する。

恵イクサ「じゃあこいつらなんで動いているの?くっくるな」

ジャンプして逃げる恵。

太牙「グールは捕食した相手をゾンビにする能力があるんだ。おそらくグールが眠りから覚めた最捕食した人々だ!だから倒せ!!そうしないと君たちもそいつらに噛まれてゾンビになってしまう!!」
健吾イクサ「マジかよ!!冗談じゃねえぞ!!くっくっそう!!来るんじゃねえ!!」

パンチでゾンビを吹き飛ばす!!

アイクサ「どうやってたおせば?」

マシンガンで連射するアイクサ

太牙「頭を狙え!!そこが弱点だ!!」

全員頭を狙い打ち何とか撃退を始める!!

渡「兄さん僕たちも行こう！！皆を助けに！！」

太牙は頷き

太牙「ああ！！」

嶋「私はここでマスターを守る！！早く行ってくれ！！」

渡たちは頷き

渡「マスターコーヒー代ここに置いておきます！！」

そう言ってお金を置いて渡たちは店を飛び出して走り現場に向かって走って行くのだった。

続く

イクサの激闘！そして邪悪なライダーアーク復活！！
(後書き)

次回はプリキュアサイドです。
では次回もお楽しみに！！

それぞれの心の傷と謎のウルトラマンとプリキュア？ガイアの光 (前書き)

今回からいよいよ狼がガイアの力を入手します。

変身はまだですがお楽しみに！

ではキバってSTARTUP!!

それぞれの心の傷と謎のウルトラマンとプリキュア？ガイアの光

ここはマイナーランド 丁度グールが三日前に受けたダメージを回復する為治療ボックスに入っていた。

グール「……………」

イエティ「相棒…まあコイツなら問題ない…おいそこのカエルと猿！さっさと働け〜！！」

このマヌケ2人組みはキバの世界と繋ぐゲートを作っていたのだがあまりに遅い上愚痴をこぼしていたので、二人に毛をミサイルみたいに飛ばしてお仕置きする！！

バストラ「もっ申し訳ありませんイエティ様！！いて！いて！ぎゃあ〜！！」

バリトン「すつすぐに完成させます！！いたい！いたい！だっだからやっやめて〜」

何とも間抜けな2人にイエティはやれやれと首をふる。

ファルセット「すまないな〜間抜けな奴らで〜」 人の事言える奴？

バストラ【お前もだろ！】「ぎゃあ〜！すみませんやめて〜！！」

またお仕置きされる。

ファルセット「ところで、2人がここに来たって事はアーク様が蘇ったのか？」

心配そうに聞く

イエティ「ああ！今頃復活なさっているだろう、だが…」

ファルセット「だが？」

イエティ「まだ不完全だろうな。キバのせいではかなり弱くなっているはず…一刻も早く不幸のメロデーを聴かせ力を回復させる必要がある。もちろんノイズ様も同じだ！！」

ファルセット「ああ！！だが少し困った事がこの三日間の間に起きたぞ！！」

イエティは王座に座りながら聞く

イエティ「どうしたんだ？」

ファルセット「実は…石版が壊れてノイズ様は何所かに行ってしまったのだ。」

それは三日前丁度狼たちが戦いが終わったころ

ノイズ「グギャアアア！」

石版が砕けてノイズが何所かに飛び去ってしまったのだ！

イエティ「なるほど…だがノイズ様の事だ！心配はいらん。」

ファルセット「ええ！どういう？」

イエティ「おそらく今頃どこかで力を蓄えているに違いないって事だ！まあ体は不完全だろうが…それに…」

ファルセット「それに？」

イエティ「何でもない【報告で聞いたが…アグル…何者だ…】」

ファルセットは？になってしまがこう言い出す

ファルセット「さて！俺は音符集めに行ってくるか。」

腕を回し出て行こうとするファルセットにイエティが

イエティ「一人でか？」

と聞く

ファルセット「ああ！！奴らも相当落ち込んでいるハズだからな俺一人で十分だ！！フフフ！！」

ファルセットはそのまま出て行った。

場面が変わりアリア中の教室

狼はシヨックの影響で今日も学校を休んでいた。

響「また休みなのね…」

奏「後で狼くんのお家訪ねて見ましよう？ねっ？」

エレン「うん…」

響とエレンは元気が無い返事をする。

すると奏は

奏「2人とも！！私達まで暗くなっちゃ駄目！！私達で狼くん元気づけてあげないと！！」

はつきりと言う奏！

エレン「そうだね！！」

響「よっし！狼くんを元気付ける作戦行こう！！」

みんな「オー！！」

3人が元気に盛り上がっている頃、狼は勉強机でぼーとしていた。

【カチャ】

扉が開き父親の巧が入ってくる。

巧「狼…」

巧はベッドに座り

巧「狼いつまでも落ち込んではいられないぞ！敵はこれからもっと積極的に攻撃してくる…それに甲もきつとお前が最後まで戦う事を望んでいるはずだ。」

狼は背中を向けたまま

狼「だけど！！俺は…もう友だちを失いたくない！！それに俺…怖いんだ！！また友だちを…犠牲にしたくない！！」

震えながら言う。すると巧は

巧「確かに…友だちを失うのは辛い！！だが甲はまだここで生きている！！」

えっ！！となり狼が驚く！！

狼「なに言ってるんだよ父さん！！アイツはもう…」

巧「もちろん生きてるんじゃない。甲はお前の心で生きつづけているんだ。お前は一人じゃない…心は常に仲間と繋がっているんだ。」

狼「…」

巧「それと響ちゃん達が来てくれてるぞ？会ってやれよ？」

狼は無言のままリビングに行く就先ほど到着した3人がいた。

響「ひっさしぶり〜！！狼くん元気だった〜？」

元気良く話しかける響

奏「はい！コレ！狼くんの為に元気が出るチーズケーキ焼いて来たよ？」

ニコニコしながら渡す

エレン「早く元気になってね？みんな待っているから」

笑顔で言うエレン

狼「みんな…ありがとな！！よっし！！今日から復活だ！！」

ようやく笑顔が戻る狼。

そして皆でケーキを食べながら

響「そう言えばこの三日間家で何していたの？」

狼は紅茶を飲み

狼「ぼーとしたり不思議な夢を見てた。」

エレン「不思議な夢？」

狼「ああ」

狼は話だす

夢の中

狼「ここは？うん？」

不思議な赤い光が狼に近づいて来た

狼「？なんだ」

赤い光「トキガキタ…ワレノチカラヲ…キミニタクス…」

そう言つて狼の体入る

狼「俺はそこで目覚めたんだ。そしてコレが机の上にあつたんだ。」

そう言つて部屋に戻り逆三角形の物を取つて戻ってきた。

奏「それはなに？」

狼「わからない…ただ名前はわかるんだ。こいつはエスプレンダーだ。」

響「エスプレンダー？なんか海さんの物と似てる…！！」

エレン「もしかしてそれもウルトラマンの？」

狼は首を振り

狼「まさか！！俺が？そんな訳が…うん？」

するとエスプレンダーが光出して見たこと無いプリキュアと翼が付いたウルトラマンがホログラム像になって出てくる。

プリキュアはキュアリズムに似ていたが衣装が全て真っ白でウルトラマンは全身が銀だった。

全員びつくりして驚く!!

狼「キミ達は一体何者なんだ？」

響「あなた達誰なの？」

謎のプリキュア「私はキュアシンフォニー全ての音楽を奏でる者。」

謎のウルトラマン「私はウルトラマンノア全ての光を集う者。犬上

狼よ、キミは選ばれた存在だ……」

狼は驚きながらも聞き返す

狼「選ばれた存在？どういう事だ？」

シンフォニー「あなたにはノイズとアークを倒すもう一つ的手段と

してあなたに大地のチカラを授けました。あなたは光の勇者の素質

を持っています。」

エレン「光の勇者？」

ノア「そうだ！その力は地球の大地の記憶 幸せの音楽の記憶 そ

して勇気の光で出来ている。今は不完全だが残りの光を探しだしそ

の力で彼らを倒すのだ。選ばれし勇者よ!!」

狼「俺が光の勇者？マジかよ!!」

啞然となりそう言う狼

ノア「その勇者は全ての力を受け入れた時真の姿で目覚める!!そ

の名は……」

そう言っつて消える。

エレン「消えちゃった」

奏「最後なんて言ったの？聞き取れなかったわ。」

すると狼がつぶやく

狼「ガイアか……」

響「？」

奏「ガイア？」

狼「この光の名前さ…さっきのウルトラマンが言っていた。【もしかしたら先代のキバが言っていた光ってコレの事だったのか?】」
みんなが啞然となっている頃

とある浜辺では藤宮海があこの出来事の事を思い出しながらペンダントを見つめていた。

海「甲…」

あの戦いが終わりスマートでは甲の遺品整理していた時彼のペンダントが見つかったのだ。そのペンダントには藤宮甲と彫られていた。このペンダントは海が作った者だったのだ。

海「アイツ…一度死んでオルフェノクになり記憶を失って…苗字変えて生きていたなんてな…」

そこに奏太と一緒に下校していたアコが通りかかる

奏太「あれ?あの人確かアコの知り合いだよな?」

アコ「うん…海さ〜ん!!」

海が振り返り

海「うん!?今帰りか?」

そして3人で帰宅路を歩き2人は海がおごった焼きたてのメロンパンを公園で食べていた。

奏太「海さんありがとぅ!!コレ旨い〜!!」もぐもぐしながら

海「ああ!すっかり食えよ!!子どもはどんどん食って身長でかくならないとな」

笑顔で言う海だった目が少し悲しそうだった。

アコ「…そういえばさっきペンダント見てたよね?あれって」

心配そうに聞く

海はしばらく黙り

海「ああ、甲の形見だ。俺が昔アイツの為に作った奴でな、アイツの部屋に置いてあったそうだ。」

空を見上げ海は続けて言う

海「俺は正直あまり悲しくはない、むしろアイツと出会えたのは良かったと思ってる!!また何所かで会える気がするしな!」

にやっと笑いアコ達に言うがアコは海の本当の気持ちがわかってた。

アコ【海さんは笑っているけど心からじゃない…本当は泣きたいほど辛いのに…】

アコは何もいえなかった。

？「あゝあゝあゝなんか無理しちゃって！ばゝかだなゝ」

いつの間にかその場にいたファルセットだった！！

アコ「ファルセット！！」

驚いて立ち上がるアコと海！！

奏太「あの人も知り合い？」

アコ「今は答えられないわ！奏太逃げて！！」

奏太は困惑してしまった。

一方の海は怒りの声を上げファルセットに聞く！！

海「貴様！！どういう意味だ！？馬鹿だと！！」

ファルセット「うるさいなゝこう言うことだよ！！フン！！」

海たち「！！うわあ！！」

衝撃波が放たれ3人が吹き飛ばされペンダントがファルセットの足元に転がる。

ファルセット「おっ音符見つけ！！いでよネガト〜ン！！」

ペンダントに付いていた音符がネガトーン化してしまう！！しかもいつもの倍以上の大きさだった。

ファルセット「どうだ！コレが改良版の巨大ネガトーンだ！ふはははは！！」

海は怒りで拳を握りながら立ち上がり

海「貴様！！欲も弟の形見を！！」

アコ「奏太しつかり！！奏太！！」

奏太は気絶していた！！

ファルセット「はあゝ？そんなに大事なものならしつかり守れよフ

ハハハハハハハハハハ！！！！」

馬鹿にしたように笑う。

すると普段は冷静でクールな海がさらに強く拳を握り睨みつけ海「貴様だけは！！ぜったいに！！絶対に！！！！許さん！！」

アグレイターを構え凄まじい怒りの声で叫ぶ！！

海「アグルウウウウ！！！！うおおおお！！！！」

ブレスが回転してブレードが展開し通常サイズのアグルに変身する！！！！

アグル「ホワアアア！！！！」

地響きを発して地面にしゃがみ独特のポーズをした後立ち上がる

アグル「【こい！！ネガトーン！！ぶっ倒してやる！！】ジユワアアアア！！！！！！！！！！」

凄いい勢いでネガトーンと組み合い放り投げに行く！！

アグル「ジユワアアア！！！！」

アコ【海さん凄く怒っている！！大丈夫かな？】

心配するアコ

一方のファルセットは？

ファルセット「な！なんだ！コイツもライダーなのか？しかもデカイ！！」

驚愕して腰を抜かしてしまう

アコ「違うわ！！彼はウルトラマンアグル！！」

アコがファルセットを睨みつけながら

アコ「海さんの大事な物をあんな事にして！！しかも奏太まで襲って！！私あなたを！！絶対に許さない！！」

アコは変身する！！

アコ「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

ポーズを決めるミューズ

ファルセット「ふん！知ったことか！！」

ファルセットは何とか立ち上がりタイガーに変身する

タイガー「プリキュア一人にライダーの力は必要ない!! 来いキュ
アミューズ!!」
ミューズ「行くわよ!!!! はああ!!!!」

続く

それぞれの心の傷と謎のウルトラマンとプリキュア？ガイアの光（後書き）

次回で二つのクロスから一つの話になります。

キュアシンフォニーは以前仮イラスト見てここでは初代プリキュアという形で登場します！！もちろん話が進んで行き少しずつ明らかにしていくつもりです。

後お気づきの方ならもうわかりましたか？

実は巧の台詞の一部ウルトラマンメビウスからのオマージュです

！！

いや〜！！この台詞「心は常に仲間と繋がっているんだ！！」

一番好きな台詞だったので入れたかったんですよ！！

では次回もお楽しみに〜！！

アーク降臨！！　そしてガイア登場！！　（前書き）

いよいよガイア登場です！！
ではキバってSTARTUP

アーク降臨！！　そしてガイア登場！！

場面が変わりキバの世界

渡たちが駆けつけたおかげで変わり果てた人間をなんとか全員始末し終えた所だった。

恵イクサ「グールの奴！！こんな酷い事して！！絶対に倒さないと！！」

ライジング「ああ！！それに渡くん！！助かった。ありがとう」

渡と太牙は生身だったが2人はそれぞれファンガイアの血を持つ為普通に戦ってゾンビを始末したのだ。

渡「ええ名護さん…うん？あれは何だろう？」

空中から火の玉が【アークが】降りてくる！！

太牙「あれは…アーク！！」

全員「な！！」

全員驚愕する！！

渡「アーク！！いつの間に封印を！！」

キバット「渡！！変身だ！！すぐにアイツは来るぞ！！！！」

渡「わかった！！キバット！！」

キバット「いよっしゃ〜キバって行くぜ！！」

太牙「守り抜いてみせるこの世界を！！キバット！！」

二世「おう！！」

二匹は2人の手を噛む

「ガブ！！」

渡&太牙「変身！！」

キバEとDキバにそれぞれ変身する！！

変身が終わった直後アークが地響きを立て到着する！！

その衝撃で名護たちが吹き飛ばされ建物に激突し全員気絶してしま
う！

キバE「名護さん！！恵さん！！健吾さん！！」

キバEは駆け寄ろうとしたがDキバが止める。

D「渡！！アークが先だ！！」

キバEは止まりアークに向き直る。

アーク「ふっ！！やっと戻ってこれたぞ！！キバ共！！覚悟しろ！！」

構えるアーク

キバE「くっ！！こつちも負けない！！行くよ！！兄さん！！」

Dキバ「行くぞ！！渡！！」

キバEはザンバットシールドからザンバットソードを拭きぬきDキバもダークザンバットを取り出す！！

アーク「残念だが…俺の攻撃には通用しないぞ！！」

見たこと無い紫と黒の大型片剣を取り出して衝撃波でキバたちを吹き飛ばす！！

キバEたち「うわああああ！！！！」

キバEが構えたザンバットシールドのお陰で何とか致命傷にはならなかったが…

キバE「うっ！！なんて攻撃だ！！あんな剣があったなんて…そっそんな！！」

なんとザンバットシールドがたったの一撃でボロボロに破壊されていたのだ！！

Dキバ「なんて凄まじい破壊力のある剣だ！！ザンバットシールドを一撃で破壊するなんて！！！！」

驚く二人

アークは剣をふり回して肩に担ぐ

アーク「この剣は月で見つけた究極の闇の剣だ！！覚悟しろキバ！！」

だがキバEはザンバットソードを構え

キバE「まだまだ！！受けてみるアーク！！これが正しき聖なる闇だ！！！！」

【ウエイク！アップ！！】

剣に闇が集まり刀身が七色に輝く！！

アーク「ぐ！！それは！！！」

これを見たアークは突然あえぐ！！

キバE「行くぞ！！はああああ！！！」

剣を振り下ろした瞬間だった！！

？「アーク様！！！！ぐわああ！！！！」

それは突然間に入ってアークを庇うマミーレジェンドルだった！！

キバE「な！！！」

Dキバ「く！！！！こんな時に！！！」

アーク「マミー！！！」

マミーは包帯で空間を作り

マミー「王よ！！この空間に…彼らが…ぐああああ！！！！！！」

爆死するマミー

アーク「仕方ない！！また会おうキバ！！！」

アークが空間に入る！！

キバE「まで！！！」

キバEも飛び込んで追いかける！！

Dキバ「渡！！！」

空間が閉じキバEとアークは消えてしまった！果たして彼らは？

こちらはマイナーランド 先ほどやっとキバの世界とつなぐゲートマシン？が完成してバストラ発ちは休憩していた。（イエティは休んで寝ています）

バストラ「でっ出来た！！！」

バリトン「つつ疲れた！！あつ！！！」

なんとネジが一本取れていたのだ。

バストラ「いいんじゃないやねえか？一本ぐらい…うん？」

突然ゲートが作動し始めていたのだ！！

バリトン「何故ゲートが？まさかアーク様？」
凍りつきながらバスドラを見る！
バスドラ「嫌な予感がするな〜！！」

場面が変わり公園の広場

アグルは怒りの感情が強すぎた為大幅にエネルギーを失いライフゲージが激しく点滅して力がかなり落ちていた！！
アグル【ぐっ！力が…だがまだまだ！！】
それでも果敢に攻め続けるアグル

だが…

ネガトーン「ネガト〜ン」

ネガトーンがチェーンの鎖をアグルの体に巻きつけ近くの建物に激突させる！

アグル「フオワアアア！！！！」

アグルはアグルブレードを出そうとするがライフエナジーがさらに激しく点滅し身動きが取れなくなってそのまま倒れる。

ミュージズ「アグル！！」

タイガー「自分の心配もするんだな！！キュアミュージズ！！！！」

するどい爪でミュージズを切り裂き吹き飛ばす

ミュージズ「きゃあ〜！！」

吹き飛ばされるミュージズ！！

アグル【ミュージズ！！ぐっ！！力が！！】

アグルはとうとう力尽きて海に戻ってしまった。

海「はあはあ！！ぐっ！！体が…動かない…」

そのまま倒れこみ意識を失う海

ミューズ「【このままじゃやられる!!!みんな!!!助けて!!!】

「
タイガー「トドメだ!!!キュアミューズ!!!」

とタイガーが両腕に力を注ぎトドメさそうとした正にその時!

?「させるかよ(ない)!!!」

それは変身して駆けつけたファイズとメロディたちだった!!!

3人「プリキュア・スイートハーモニーキック!!!」

【Exceed Charge】

ファイズ「くらえ!!!クリムゾンスマッシュ!!!」

それぞれのキックが決まりタイガーは吹き飛ばされる!!!

タイガー「ぐおおお!!!後一步で!!!ちっ!!!!」

なんとか立ち上がって消え去るタイガー

ファイズ「逃げたか!!!」

悔しがるファイズ

メロディ「ミューズ大丈夫?」

ミューズ「うん!ありがとうみんな!!!それよりもみんなどうして

ここがわかったの?」

ファイズ「オートバジンが連絡して教えてくれたのさ!」

数分前

狼は響たちからアグルの話を聞き終えた所だった。

狼「まさか海がウルトラマンに!!!知らなかったな!!!」

響「あたしも驚いたわ!!!いきなり変身したし!!!ホントびっくりし

ちゃって!!!」

とここでファイズフォンが鳴る。

狼「うん?パトロールに出ていたオートバジンからだ...なに!!!ミ

ューズとアグルが交戦してるって!!!」

奏「大変!!!!」

エレン「助けに行きましょう!!!!」

そう言っただけで飛び出してオートバジンの地図の通りに公園に向

かった

ファイズ「っと言う訳さ…それよりも…なにあの化け物？」

ネガトーンが海達に迫っている！

リズム「なんて大きなネガトーンなの！！奏太！！」

奏太も海の近くで気絶していた。

ファイズ「海達は俺が助ける！！みんなは注意をそらしてくれ！！
ビート「ええ！！」

まずはファイズが救助に向かう！！

【complete】【start・up】

ファイズはアクセルフォームに変身して高速で海たちを救助し四人はパンチやキックで果敢に攻める。

だがネガトーンが大きすぎる為思った以上のダメージを与えられない！！

メロディ「こいつ！！強い！！」

ミューズ「それなら！！おいでシリー！！」

シリーが飛んで来てキュアモジューレに収まり

ミューズ「シの音符のシャイニングメロディ！プリキュア・シャイ
ニングサークル！！」

4人の幻影を生み出し、五芒星のようなサークルを描いてネガトーンを拘束する！！

ビート「これで一気に行きましょう！！」

ファイズ「いや駄目だ！！コレだけデカイ奴だとプリキュアの力だけじゃハーモニーパワーが足りない！！浄化する前に脱出する可能性がある！！」

戻ってきたファイズが意見を言う

ミューズ「そんな！！」

リズム「せめてアグルが力を貸してくれれば…そうだわ！狼くん！
！さっきの力使えば！！」

ファイズ「ガイアか!!よし!!やつてみるか!!」

変身を解除してエスプレnderをとりだし両手で前に突き出して構えて叫ぶ!!

狼「ガイアアアア!!!!!!」

眩い赤い光が放たれ狼が光と一体化しグングン大きくなり赤と銀そして少し金が入った巨人ウルトラマンガイアに変身する!

ガイア「デュワアアア」

地響きを立てて降り立つガイア!!

メロディ&リズム「スゴイ!!」

ビート「これがガイア…」

ミューズ「新しいウルトラマン…すごい…くっ!!」

シャイニングサークルが不安定になり始める!!

ガイア【後は俺がやる!!離していいぞ!!】

シャイニングサークルが解除される。

ガイア「ジュワ!!」

ガイアはそのままネガトーンを掴み倒すと超高速で回りジャイアントスイングで空中に放り投げる!!

ガイア「ジュワアアアア!!!!!!【どうだ俺のスイング!!!!!!】」

メロディ「やり過ぎじゃない?」

目が点になる。

ガイア【とにかく今だ!みんな!合体技だ!!】

メロディ「わっわかったわ!!みんな行くよ!!」

四人はヒーリングチェストを取り出し

四人「出でよ、全ての音の源よ!」

クレッシェンドトーンを召喚し

四人「届けましょう、希望のシンフォニー!プリキュア!!スイートセッション・アンサンブル・クレッシェンド!!!」

両腕をクロスしたままクレッシェンドトーンの金色の光の炎と一体化して飛行・突撃する!

ガイア「ジュワ！アアアア！！！デユワアアア！！！！」

それに合わせガイアも腕をT字型に組んでエネルギーを溜め、右腕をL字型に構え直して左手を右腕の関節に乗せて必殺光線の一つクアンタムストリームを放つ！！！！

クアンタムストリームとスイートセッション・アンサンブル・クレッシェンドが合体する

ガイアとメロディ「プリキュア！！スイートセッション・クアンタムストリーム・クレッシェンド！！！！」

そしてメロディ達が決める！！

四人「ファイナレ！」

ネガトーンは浄化され元の音符とペンダントに戻る。

ガイア【何とか終わったか！】

ガイアとプリキュア達はは辺りを見渡す

メロディ「あちゃ〜公園とかが全部ボロボロだ〜！」

リズム「なんとしないといけないわね〜はあ〜！！」

全員悩むがガイアがひらめく！！

ガイア【待てよ！ウルトラマンの技なら！！】

ガイアは腕をクロスして光を出し一瞬で全て元通りになってしまう！！
ビート「すごい！！一瞬で！！」

ガイア【まあな！！うん？】

【ピコン！ピコン！ピコン！ピコン！】

ライフゲージが点滅し始める。

ガイア【げっ！！もうパワー切れ？】

そう言いながら狼の姿に戻りプリキュア達も元の姿に戻って海と奏太を起す。

狼「お〜い起きろ！！いつまで寝てるんだ！！」

奏「奏太！！すっかりして！！」

海「ぐっはっ！ネガトーンは！！いや俺のペンダントは！！」

奏太「はっ！！どうなったの！！っってお姉ちゃん？」

2人が目覚める。

奏「良かった!!」

奏太を抱きしめる。

狼「ペンダント?」 首をかしげながら

エレン「コレの事?」

エレンが渡す。

海「!!...ありがとな」

そう言つてポケットにしまう。

狼「さて帰ろうぜ!!腹減った!!」

響「わたしも!!」

奏「もう2人も食いしん坊さんね」

エレン「アコ、奏太くん帰ろうか?」

アコ&奏太「うん」

全員笑顔になつて帰り始める。

そしてメンバーはバラバラになつてアコが家に戻る時に道で
鳥「ピー」

怪我をした変わった鳥を見つける。

アコ「大変!!大丈夫?」

アコはその鳥を連れて帰り治療する事にした。

一方の狼と響たち

狼「さして晩飯晩飯 うん?」

?「誰か!!助けてくれ!!」

と声がしてくる。

狼「なんだ?」

響「あれこの声どこかで聞いた事あるような?」

奏「たしかに?え」と誰だったかな?」

奏太「?」

?「おい!!」

エレン「とにかく行つて見ましよう!!」

奏「奏太!!先に帰りなさい!!お姉ちゃんちよつと用事できたか

ら

とみんな走って行く。

奏太「置いてけぼりかい!!」

そして声のする方に行くとき、なんと渡とキバットがいたのだ!!しかも何故か渡は樹に引つかかかって気絶していた

響「え〜!!渡さんにキバット〜!!」

奏「どうして!!」

キバット「おお〜お嬢ちゃん達!!手伝ってくれ〜!!」

エレン「とつとにかく降ろさないと!!狼くんお願い!!手伝って

!!」

狼「ああ!!【だれだろうこの人?】」

こうして渡は樹から降ろされたがまだ意識がなかった。

狼「とりあえず俺の家に連れて行こう。あそこなら治療センターがある。」

響「よし運ぼう!!」

キバット「ああ!!頼む!!」

狼「わかった【?なんだこのコウモリ】」

こうしてオートバジンを呼び出して渡を病院に運んでいたのだった。

一方のアークは何所にいったのか?

アーク降臨！！　そしてガイア登場！！　（後書き）

次はウルトラマン達の設定です！
お楽しみに！！

ウルトラマン達の設定(前書き)

ウルトラマン達の設定です
ではキバってSTARTUP

ウルトラマン達の設定

ウルトラマンガイア【V1】

狼が赤い光で変身するウルトラマン

スペックなどは原作同様だが今作はノアとシンフォニーが生み出した光となっている。

地球の大地の記憶 聖なる音楽の力を持つシンフォニー そしてウルトラマンノアの光が狼と融合して誕生したウルトラマン

この姿はまだ不完全であり真の力を引き出すには青い光も必要となっている。

戦う時はパワーを活かしたパワー重視型でダイナミックに戦うのが得意である。

その分不完全体である為、水中戦や速い敵が苦手

狼の変身ポーズは両手でエスプレnderを構えて突き出す方法を取る。

必殺技はクァンタムストリームとフォトンエッジ

ウルトラマンガイア【V2】

完全な力を取り戻したガイアのパワーアップ形態であり完全体の姿全ての力が強化され不得意だった水中戦も問題なく戦える。

またアグルV1の技もそのまま使用可能。

狼が海から青き光を貰った事で変身可能になった。

ウルトラマンアグル【V1】

ガイア同様ノアが藤宮海に青い光を与えた事により変身する青いウ

ルトラマン

原点とは異なり人間を初めから守る為力が使われている。

またこの力は本来の青の光の力ではなくガイアの力の一部である。

戦い方はアグルブレードを主に使うスピード技やアクロバティックな動きを得意とする。

だがパワーがガイアより劣る為パワータイプの敵が少し苦手である

必殺技はフォトンクラッシュ

変身ポーズは原点同様

ウルトラマン達の設定（後書き）

次回は音符消失事件と怪獣登場です！！お楽しみに！

怪獣のヒントはズバリ沢山の目！！あっ！

狼「おいおいネタバレしてる！！しかもそれガン！！！！ムグ」
言うな！！！！

フギヤー！音符がぜーんぶ消えて目玉の怪物ガンQとカブト登場ニヤ〜【前編】

今回は長いので二つに分けました！！

多分皆さんびっくりするかな〜！！

後タイトルをプリキュア風にしてみました【本編の方を少しいじっただけですが？】

ではキバってSTARTUP

次の日の朝！小鳥が鳴いているが響は昨日のことで疲れて爆睡していた。

一方のハミイは起きたのだった。

ハミイ「あゝあゝ！よく寝たニヤ！コトリさんおはようニヤ〜」

フェアリートーンが近寄り

ドリー「ハミイおはようドド！あれ響まだねてるドド！」

ハミイ「昨日は渡さんを運んで色々話をしていたみたいだニヤ〜疲れているからそのまま寝かせておくニヤ〜」

響が爆睡してしまった訳

それは昨日の事

響「え〜！！アークが復活した〜！！」

狼「マジかよ〜！！」

困惑するみんな

渡「うん、僕はアークを追いかけてゲートに入ってきたんだけど…」

キバット「あのゲート超不安定だったから渡の奴あちこちぶつけて

気絶しちまった訳さ〜！！」

狼「なっなるほど！【だから気絶していたのか！】」

エレン「おっお大事に〜！！」

こうして狼達はこれまでの事などの色々な話をした為響は疲れた訳である。

ハミイは音符を確認する為フェアリートーンを覗く

ハミイ「さてどれ位音符集まったかニヤ〜！！ニヤ〜！！ニヤプ〜！

！……！！……！！」

ハミイはパニックになりながら響を起す!!
ハミイ「響!! 大変だニヤ〜!! すぐ起きるニヤ〜!!!!」
響「どうしたの〜ハミイ〜? ムニヤムニヤ!」 寝ぼけてます。
ハミイ「のんきに寝ている場合じゃないニヤ〜!! 音符がぜんぶ消えちゃったのニヤ〜!!」
響「そう…音符が…ふ〜ん…つて! え〜〜〜!!!!!!」
響は大慌てでみんなに連絡する

しばらくしてみんなが集まり奏の家であるLUCKY SPOON
のベランダで話す

奏「でも変よね? 音符が勝手にいなくなるなんて…」

狼「音符を盗んだとか? でもさすがに物音したら…いや響なら気づかないか!」

響「う!! つてあたしそんな事…」

狼「そんな事?」

響「あるかも…」

ハミイ「しかしニヤんで音符消えちゃったのにや? 全く食欲無くニヤるニヤ!!」

そっぴいなながらもケーキをやけ食いするハミイ

エレン「つて言いながら食べてるじゃない…」

苦笑しながら言うエレン

渡「まあまあ! とにかくまずは音符を探そう!! ね?」

アハハと笑いながら言う渡

狼「それもそうですね渡さん!! さてどうやって音符探すか?」

するとアコが

アコ「それならおじいちゃんに頼んでみようよ?」

響「そっか!! あの手があつた!!」

奏「そうね!!」

狼&エレン「あの手?」

渡「?」

とその時店のベルがなった！！

奏「あ！！お客さんだわ！！」

奏は走ってレジに向かい

奏「いらっしやいませ？？？？」

それは何故か豆腐を器に入れて持ち灰色の和服姿の海？だった

奏「海さん？どうしたんですか？【どうしてお豆腐を？】」

すると海？は

海？「俺は海じゃない…俺は天道　総司！天の道を往き、総てを司る男だ。」

と指を天上に向けて言う

奏「はっ？はあ〜？」

天道「この町で旨いケーキがあるって噂を聞いて来てみたんだが…四つ持ち帰りで貰おうか？この店の一番旨いケーキを！！」

奏「あっはい！！わかりました。」

自身作のケーキを下の棚からとりだし箱に詰め始める

一方の他メンバーもガラス越しで除いてこの会話を聞いていた。

狼「マジで海ソツクリだなあの人！！」

響「世の中には自分ソツクリなひとが五人いるって話だけどまさか本当にいるとは思わなかったな〜」

エレン「後何でお豆腐持っているのかしら？」

全員「さあ〜？」

奏「はい全部で1550円です。」

天道はお金を払い箱を持って店から出て行った。

一方のマイナーランド

前回バスタドラ達が雑な作業をしたせいでアークはあちこちボロボロになり何とかマイナーランドに到着していた。

当然2人は丸一日アークにこっぴどくお仕置きされていた。

アーク「ったく！！この役ただず共！！しっかり設計図をみる！！」

2人「申し訳ありませんアーク様！！」　必死の土下座中！！

アーク「全く！！とここでイエティ！グール！音符はどの位集まった！見せてみる！！」

イエティ「は！アーク様！コレを！！」

大量の音符が入ったビンを見せる！！

実はイエティ達は狼達に見つからない用に密かに音符を集めていたのだ！

ファルセット「す！凄い！いつの間に！！」

アーク「しかしまだまだ足りない！！ファルセット！！とこの馬鹿2人共！！音符をもっと集めて来い！！」

ファルセット「は！アーク様！！おおせのままに！おいお前達！！行くぞ！！」

2人「了解！！ファルセットさま」

3人が行った後アークは

アーク「そろそろアイツも呼び寄せるか…」と呟いた。

場面が変わって調べの館

音吉はメンバーから事情を聞き

音吉「この前と同じ手を使うのか…」

それはこの未完成のオルガンで音符を活性化させ音符を集める作戦だったのだ。

音吉「しかし前にも言ったがこの作戦はリスクが高いぞ！！向こうも動いてくるはずだ。」

響「大丈夫です！！こっちにはスマートの人々がいるから…」

どうやら響はスマートのメンバーに手伝ってもらったらしい。

狼「おいおい！！それは無理だぞ！！」

響「えっなんで！！」

狼「当たり前だ！！今世界中のオルフェノクやレジエンドルガ達の対応に追われてメンバー全員いないんだよ！！」

腕を組みやれやれと首を振る！！

響「えっ！！じゃあ私達だけ！！」

がっかりする響

奏「仕方ないよ！敵は個々とはかり決まったばかりじゃないんだから」

エレン「まあまあ！とにかく人数は6人…」

キバット「俺もいるぞ…」

タツロツト「私も…」

エレン「ごめん 8人いれば何とかかなりますから…」

アコ「お爺ちゃんお願い…」

渡「音吉さんお願いします…！僕は既に正しき闇も手に入れましたから…！奴らが現れても退治できますし…」

音吉はしばらく無言になり

音吉「わかった…！では始めるぞ…」

オルガンを弾き始める…！

すると町中の音符が活性化し始めたのだ…！

場所が変わりとある平地 突然地面から巨大な目玉が出てきてそのオルガンの音にうつとりした表情になる。

すると偶々訓練中の自衛隊の戦闘機が発見する…！

隊員1「なっなんだあれは…」

隊員2「ばっ化け物だ…」

隊員達は直ぐに本部に連絡し本部もこの映像を見て驚き

司令官「直ぐにミサイル攻撃だ…」

隊員1「了解…」

二機の戦闘機がミサイルを発射する…！

隊員2「よし…！命中…！してない…」

なんと目玉はミサイルに気づいてそのミサイルを吸収したのだ…！そして地面がパツクリ割れて怒ったガンQが出てくる…！

ガンQ「キュルルル…」

ガンQは戦闘機も吸収し始める…！

隊員1「うわああああ…」

隊員2「脱出だ〜！！！！！」
そのまま戦闘機を取り込み怒ったガンQは加音町に向かって飛んでいった！！

場面が変わり狼達

外に出て見ると辺り一面に音符が沢山いた！！

狼「すげ〜！！音符がたつくさんいる〜！！」

驚いて口が思わずアングリとなる狼。

奏「さあ！！トリオやレジェンドルガの邪魔が入らない内に！！」

響「全部集めよう！！」

持ってきた網で早速音符を集めるメンバー

渡「それ！よいしょ！」

キバット「まで！待て！待て！〜」 何故か音符と追いかけてこ！

タツロツト「テンションフォルテッシモ〜！」 同じく

響「えい」

奏「それ」

エレン「ほ」

アコは音符をせっせと集めてはバスケットに入れて次に高い所にある音符に手を伸ばすが届かない！！

アコ「う〜ん！！！！」

するとエレンがキャッチして

エレン「高い所は任せて」

するとアコは不機嫌な表情になり黒ミューズのブーツを取り出して履き

アコ「高い所でも平気だもん！！」

と言っ！

エレン「それって黒ミューズの時のブーツ？」

アコはやけ気味に音符をキャッチしエレンが笑いながら困った表情をする。

響「アコつて意外と負けず嫌い？」

奏「なんかかわいい 私達も負けてられないわね」

響「うん」

狼もチマチマと音符を回収していたが？

狼「あゝ！！もう！！めんどくせえ！！変身！！」

【Statting・by!complete】

何故かファイズに変身する

響「え！ちよっ！何やってるの！！」

ファイズ「なにつて一瞬で音符集めるに決まっているだろ？行くぜ

！！」

【complete】【start・up】

ファイズはアクセルフォームになり超高速で残りの音符を回収する

！！

ファイズAF「うおおおお！！！！それぞれ！！おりやあああ！！

！！」

【three!two!one!Timeout!】

そしてファイズAFのアーマーが閉じて

【Reformation】

と鳴つて両手いっぱい音符を回収して変身を解除する。

狼「いっちょ上がりつと！！」

響「ワザワザ変身する？」

狼「だつて！！チマチマ集めるのめんどくせえだもん！！」

頬を膨らませて言う狼

狼は機械作り以外のチマチマした作業が大嫌いなのだ！！

奏「まつまあ音符集まったからいいんじゃない？」

エレン「あははは…」

場面が変わり浜辺

ファルセット「音符がこんなに！！！！これはチャンスだ！！！！フッフ

！！」

ニヤニヤ笑うファルセット

バストラ「うん？」

バリトン「はて？」

2人は何かに気づいて空を見た

2人「ギヤアアアアア！！！！！なんじゃあれえええええ！！！！！！」
腰を抜かす2人

ファルセット「やかましい！！！！一体何事…ウワアアアアア」

この後3人はガンQに踏まれて伸びてしまったそうなの！

コレを水晶で見ていたアークはワナワナと拳を握り椅子を思いつき

り叩き！！

アーク「イエティ！！グール！！行って来い！！」

イエティ「は！アーク様！！」

グール「了解！！…」

彼らは空間を作って消えた。

再び原っぱ

狼「あゝ疲れた！！」

エレン「お疲れ様」

丁度全員休憩をしていたつとその時！！

人々「うわああああ！！！！きゃああああ！！！！！！」

凄い悲鳴が町から聞こえてきたのだ！

響「何今の悲鳴！！」

奏「あ！あれ！！」

奏が指差した方角を見るとガンQが暴れているのだ！！

響「うわあゝなにあれ…気持ち悪い…しかも大きいし…」

エレン「目玉が沢山？」

渡「レジェンドルガやネガトーンでも無いねあれ？」

キバット「ああ！！」

タツロツト「しかも町中にオルフェノクが!!!」

この騒ぎにオルフェノク達もどうやら紛れて暴れているらしい
アコ「とにかく人々を助けにいきましょう!!!」

メンバーは走って現場に駆けつけそれぞれ変身アイテムを取り出す
!!!

狼「つたく!しかたね!な!!!行くぜ!!!」

4人「町を破壊するなんて!!!絶対に許さない!!!」

渡「行くよキバツト!タツロツト!!!」

キバツト「よっしゃ!!!キバって行くぜ!!!」

四人「レツツプレイ!プリキュア・モジュレーション」

メロディ「爪弾くは荒ぶる調べ!キュアメロディ!」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ!キュアリズム!」

ビート「爪弾くは魂の調べ!キュアビート!」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ!キュアミューズ!」

四人「届け、4人の組曲!スイートプリキュア!」

ポーズを決める4人!

キバツト「ガブ!!!」

渡「変身!!!」

渡はキバEに変身する

狼「ガイアアアアア!!!!!!」

エスプレンダーを構え赤い光と共にガイアに変身する!!!

ガイア【目玉怪獣は任せる!!!みんなはオルフェノク達を!!!】

メロディ「わかったわ!!!」

ガイア「頼んだぜ!!!行くぜ目玉野郎!!!」ジュワ!!!」

ガイアはガンQに向かって走って行き!!!

ガイア「ジュワアアア!!!!!!」

ストレートパンチを放つ!!!するとガンQはひらりと交わし触手の

ような物でガイアの首に巻きつけ

ガンQ「キュルルルル!!!」

そのままガイアを放り投げてしまった!!

ガイア「デュワアアアア!!!」【うわああああ!!!】

見事に建物に激突しガンQは目がにつこりとする!!

ガイア【くそ!調子に乗りやがって!!コレでも喰らえ!!】

立ち上がり両手を上に上げエネルギーをガイアヘッドに溜め始める!

ガイア「ジュワアアアアア!!!」デュワアアアアアア!!!

!

ガイアヘッドから鞭のようにしならせながら光の刃でありガイアの必殺技の一つフォトンエッジを放つ!!

だが!!!

ガンQ「キュルルルル!!!」

なんとガンQはフォトンエッジを吸収してしまった!!

ガイア【なに!!!くっ!!!】

【ピコン!ピコン!ピコン!】

虚しくもライフエナジーが鳴る!必殺光線は破壊力に優れる分エネ

ルギー消費が一番激しいのだ!!

ガンQはと言うと何故か急に大人しくなっていた。

ガイア【え?どうしたんだ?】

ガンQ「あ〜お腹いっぱいキュ〜遊んでくれてありがとうがとぅきゅ〜

!!」

ガイア【へ?どういう事だ?ってお前喋れるのか!!!って遊び?】

びっくりするガイア!!!

ガンQ【もちろんキュ〜!!!】

ガイア【なんで暴れていたんだ!!!と言うかまずそこ座れ!!!】

何故か胡坐をかいて座る二人

ガンQ【僕は只だ綺麗な音楽を聴いていただけなのに、いきなり攻撃されてイライラしたからもつと音楽が聴けるこの場所に来たんだキュ〜!!!後さつきはごめんなさいキュ〜!!!】

ガイアは頭をポリポリし

ガイア【だからと言って暴れるなよ！！全く迷惑な奴だ！！よし今回は許してやる！！ただし！！】

ガンQ【ただし？】

ガイア【お前俺の仲間になれ！！】

ガンQ【え！僕がキュ〜！！】

ガイア【ああ！！お前の能力は役に立ちそうだしな！！！！】

ガンQ【分かったキュ〜！！でも僕のサイズじゃ〜！！】

ガイア【任せろ！】「ジュワアアアア！！！！」

両手をクロスしてガンQを人間の手のひらサイズにする

チビガンQ【小さくなったキュ〜！！】

ガイアはそのまま狼に戻り

狼「とりあえずここに入ってる！！」

チビガンQ【わかったキュ〜！！】

狼はそのまま走ってオルフェノクが大量発生した現場に向かって行った！！

後半に続く！！

フギヤー！音符がぜーんぶ消えて目玉の怪物ガンQとカフト登場ニヤ〜【前編】

次回は後編です！！では

ガンQ【また見てね〜キュ〜】

狼「なんでお前が…」

新しい仲間と敵の設定 (前書き)

嶋先生オリジナルレジェンドルガと新たな仲間の設定などです。

ずっと設定出すの忘れていたので出します

嶋先生ありがとうございます。いくつか設定変更しましたが一部だけですので基本は嶋先生のままです。

ではスタート!!

新しい仲間と敵の設定

ガンQ

ガイア本編で登場したお馴染みの怪獣

今作では狼の仲間兼ペットである。

得意技は相手の攻撃などを吸収する技など

レジェンドルガ

アークとノイズに仕えているあらゆる伝説の元になった怪人

今作オリジナルの固体も存在する。

原点の四体は別固体である。

イエティレジェンドルガ

イエティの伝説の元となった怪人。レジェンドルガの中で唯一パワーを誇りまたスピードもかなり速い、その筋力で相手を力押ししてプリキュアやライダーを圧倒するほどの力を見せつける。またライダーとプリキュアの必殺技を打ち破るほどの力を持ち、自身の毛を鋭い槍に変化させライダーのスーツを貫通するほどの力を持つ能力の持ち主である！

劇中では変身した甲を殺害した。

恐るべし攻撃力と防御力を誇るレジェンドルガとも言える。

ファイズクリムゾンフォームと戦い死亡した。

グールレジェンドルガ

グールの伝説の元となった怪人。メドゥーサレジェンドルガと同じ凶暴で、相手を捕食したり、また捕食以外にも相手をかみついてゾ

ンビ化させて感染させる力を持ちネバネバした液を吐いて相手の動きを封じる能力も持つ。弱点は炎と光で光に一番弱い。また喋りがあまり得意では無く所々抜けて話すのが特徴。

戦闘形態

爪と牙が二倍の長さになり大幅に強化された形態
クロックアップ程ではないがかなり早く動く。

カブトのライダーキックは耐えれてたが全員の必殺技を受け死亡した

マミーレジェンドルガ

原作同様に別固体

アークをキバからの攻撃かばって死亡。

ガーゴイルレジェンドルガ

原作同様に別固体

健吾イクサと戦い死亡

マンドレイクレジェンドルガ

原作同様に別固体

ライジングとの戦いで死亡

メデューサレジェンドルガ

原作同様に別固体

恵イクサとの戦いで死亡

新しい仲間と敵の設定 (後書き)

次回はいよいよ後編です！お楽しみに〜！！

主人公及び登場人物（前書き）

ついでに登場人物集です。
ではスタート

主人公及び登場人物

主要人物及び登場人物

ファイズ側

犬上

いぬがみ

ろうろう

狼 / 仮面ライダー555 / ウルトラマンガイア / ウルフオル

フェノク

年齢14

演 宮野真守

1人呼は俺【時々僕】

本作オリジナルの主人公でスイートプリキュアのアリア学園中等部に転校生としてやってきた。

口が少々乱暴な言い方をするのはシャイな為であり本当は優しく素直に言えない為である。

だが仲間と接する事でだいぶ穏やかに話せる用になっていった。

スマートブレインのチームジャスティスの隊長を勤めており、またこの世界で侵攻し増えたオルフェノクと戦う為ファイズに変身する！

また今作で新たに赤い光を手に入れウルトラマンガイアに変身する。年齢の割にはかなり大きく182.5センチもある【演じているマモちゃんと同じです】

女の子が少し苦手だったが今は無くなっており普通に接している。ケーキが大好きでありまた、ウルトラマンが大好きであり特にゼロに憧れている。

また回収作業が大嫌いである事が判明した！！

得意なバトルスタイルはあらゆる格闘技を応用した技を使って戦う！甲が死んだのでシヨックの傷がまだ完治した訳ではないが父親からの言葉を胸に戦っている。

口癖は「ったく！しかたね〜な！」

とみおか せいじ
富岡成二 / 仮面ライダーカイザ / ホースオルフェノク

年齢 25

演 高岩成二

1 人称は俺または私

狼と甲の上官で彼らの兄貴分！

非常に熱い性格の持ち主だが頭はかなり切れる？男であり情報分析が得意！

ファイズのプロトタイプ、仮面ライダーカイザに変身する！

得意なバトルスタイルは原点のファイズ同様ラフスタイル！

悪癖として熱血捨て身戦法が得意！

みしま こう
三島甲 / 仮面ライダーデルタ / タートルオルフェノク

年齢 14

演 三浦涼介

狼の親友で最初はファイズ装着者になる予定だったが選ばれず、2つのライダーのプロトタイプ仮面ライダーデルタの装着者に任命された。

性格は真面目だが、少しドジな所がある！甘い物が苦手だったが奏のケーキで好きになった

身長は狼と同じ。

バトルスタイルはキックボクシングスタイルを得意とする

また射撃も上手い！

実は記憶を失って苗字を変えた藤宮海の弟である事が明らかになった。イエティによってやられ記憶が蘇りそして死亡した。

ふじみやかい
藤宮海 / ウルトラマンアグル / 仮面ライダーディガンマ

年齢 16歳

演 水島ヒロ

狼の幼なじみでアグルとディガンマに変身する高校生の小年

クールな性格だが正義感が強く子どもが好き。また幼なじみの狼や死んだ弟【実際は生きていた】の面影があるアコは放って置けない為時々助ける！

右腕にアグレイターを身に付けている。

オルフェノクではないがアグルの力のおかげで変身が可能になっている

特技は水泳

三島甲は彼の実の弟であったことが明らかになった。

彼の形見のペンダントを大事に持っている。

犬上 いぬがみ 巧 / 仮面ライダーオーガ たくみ

狼の父親で現在は再びスマートの武器及び様々なサポートアイテムを作っている科学者に復帰した。

劇中では狼を励ましたりして「心は仲間と常につながっている」と教えた。

プリキュア側

北条 響

原作同様、おつちよこちよい部分もあるが、正義感が強い少女
今作ではキバとガイアと共に共闘して行く！

南野 奏

原作同様、響の幼なじみ！
しっかりしていて、怒ると怖い！

黒川 エレン

原作同様、セイレーンが人間の姿のままになっている。
ディケイドと共闘した時から何故か自己紹介すると学校の時の自己

紹介になってしまおう！

調辺 アコ

原作同様だが少々性格や初期の登場の仕方が違う
メイジャーランドのお姫様で今作でも一人のプリキュアとして戦う
！！

調辺 音吉

原作同様でノイズを封印した張本人
現在はノイズを倒す切り札のオルガンを作っている。

キバ側

紅 渡

原作同様キバの世界の主人公でありもう一人のキング
今回はアークが通った空間を通ってやってきた。
アークを倒す為正しき聖なる闇を身に宿している。

登 太牙

原作同様でキバの世界の王
アークとの戦闘中に渡とはぐれてしまった。

名護 啓介

原作から三年経過しているが、あまり変化がないと思いきやだいぶ
人間らしく思いやりも見せるようになった！
現在はイクサ隊の隊長である。
今作でもライジングに直接変身してレジエンドルガと戦う。

名護 恵

原作から三年経過した今でも夫を名護くんと呼んでいる。

今は、イクサ隊で副隊長をつとめて自分専用イクサに変身する。

襟立 健吾

原作から三年経過しているためギターは普通に弾けるレベルまで回復した！

今作ではイクサ隊の第2副隊長である

自分専用のカスタマイズイクサを使用する！

嶋 護

原作から三年経過しており太牙とは仲直りしている。

今はファンガイアと人間の共存する為にイクサ隊を作り一般人の間やファンガイアを守る為に戦っている！

今作ではキバの世界でレジエンドルガとの戦いに明け暮れている

主人公及び登場人物（後書き）

次回が本当に後編です。
色々すみません。

フギヤー！音符がぜーんぶ消えて目玉の怪物ガンQとカブト登場ニヤ〜【後編】

後編お待たせしました！！

カブト参戦です！！気合いれて書いたので多分原作に近い変身シーンになったかも…

ではキバってSTARTUP！！

その頃のメロディ達は街中にいた。

メロディ「はああああ！！」

メンバーは必死で襲いかかって来たオルフェノク達と戦っていたが数が凄すぎて苦戦してしまう！！

ミュージズ「はあ！はあ！数が多すぎるわ！！」

ビート「でも負けない！！私の心のビートは止められないわ！！ビートソニック！！」

ビートソニックで複数のオルフェノクをまとめて倒すビート！！

オルフェノク達「ぎゃあああ！！！！！！」

キバット「ウエイク！アップ！！」

キバE「はああああ！！！！！！」

コウモリ型の衝撃波をザンバットソードから出し一刀両断でオルフェノク達を一掃する！！

オルフェノク達「うわああああ！！！！！！」

メロディ「よし！！リズム！！ミュージズ！！パッショナート行くよ！！！！」

リズム「ええ！！」

ミュージズ「わかったわ！！」

3人がジャンプし手を合わせ

3人「プリキュア！パッショナート！ハーモニー！！」

メロディとリズムそしてミュージズとのパッショナートが炸裂し大半のオルフェノクが爆死する！！

3人は着地し

メロディ「やった！！」

リズム「でもまだ半分残ってる!!」
ミュージズ「このままじゃ…あ!あの人!!」

一人の男がこちらに向かって歩いてくる。

それは先ほどの格好の天道だった!!

天道「おばあちゃんが言っていた!人に迷惑をする行為をする相手
がいたら正しい方向に導けと!!」

ゆっくりと歩きこちらに近づく。

メロディ「あの人!!あつ!!危ない!!」

オルフェノクが天道に攻撃を仕掛けるが!!

【ガン!ガン!ガン!!!】

何所からも無く赤いカブトムシ型の昆虫メカ、カブトゼクターがオ
ルフェノクを攻撃して弾いたのだ!!天道はゼクターをキャッチす
る!!

リズム「赤いカブトムシ?」

天道「久しぶりだな」

天道はゼクターに話しかけオルフェノクを見て

天道「変・・・身!!」

ゼクターを一瞬落としそして早業でベルトにセットする!!

【Henshin】

ヒビロノカネという未知の金属で製造されたマスクドアーマーが
天道の全身を覆っていき天道は最初に変身する仮面ライダーカブト、
マスクドフォームに変身する!!

メロディ「え〜!!なにあれ!!」

リズム「あれってまさか仮面ライダー?」

するとカブトはカブトクナイガンを取り出し連射してオルフェノク
を打ち倒しさらに持ち替えてアックスモードで複数まとめて切り倒
す!!その動きは全く無駄の無い動きでとても重い鎧を装備してい
る者の動きとは思えないほどだった。

カブトM「は！！たあ！！」

ミュージズ「凄い！！なんて切れの有る動きなの！！」

ビート「天道さんあなた一体？」

カブトM「俺は太陽の神：仮面ライダー：カブトだ…」

こちらに少し振り向き答えるカブト

ミュージズ「カブト？」

カブトM「ああ！俺は偶々ここに旨いケーキがあるって聞いてやって来たのだが：人々の悲鳴をきいてな！それに」
指を高く突き上げ

カブトM「この俺がいる限り悪は栄える事はない！！」

自信げに言う

メロディ「は？はあ〜？」

すると別の建物のから狼が走ってこの街中に入りファイズフォンにコードを入力する！！

狼「お〜い！待たせたな！！変身！！」

【Statting・by】

待機音が鳴り響くファイズフォンをドライバーにセットする！！

【complete】

ファイズに変身しそのままファイズショットを取り出しメモリーをセットジャンプしてグランイアンパクトを放つ体制に入る！！

ファイズ「喰らえ！！グランインパクト！！」

【Exceed Charge】

一気にまとめて複数のオルフェノクを殴って吹き飛ばしファイズはかっこよく降り立つ！！

オルフェノク達「がああああ！！！！！！」

カブトM【中々のパンチだ：加賀美に少し似ている戦い方だな…】

カブトは仲間の一人加賀美新を思い出して見つめていた。

メロディ「結構速かったね？余裕だったの？」

ファイズ「まあな？ってその人は？」

ミューズ「天道さん！今は仮面ライダーカブトですって！！」

ファイズは驚き

ファイズ「え〜〜！！！！あの人がライダー！！！！」

カブトM「そんなに驚くことか？」

ファイズ「すみません！！びっくりしたもんで…いや〜驚いたな〜！！」

すると隠れていたガンQが

ガンQ【こんにちはキュ〜】

のんきに挨拶する。

全員「え〜！！何このちっちゃい怪獣！！」

ファイズ「え〜となくかくかくしかじか」

事情をちゃんと説明する

キバE「なるほどね〜！！このちっちゃい怪獣くんそんな理由で…」

キバット「全くだ！！」

メロディ「って言うかこれからその怪獣どうするの？」

ファイズ「う〜ん取りあえず俺のペットにしようかと！！」

リズム「え！！嘘でしょ！！」 ちよつと気持ち悪いと言う表情をしながら

ファイズ「コイツ見た目より結構可愛い奴なんだけどな…」

ビート「そっそうねアハハ…」 笑ってごまかす。

ファイズ「まあとにかく…一気にこいつら片付けるか！！天道さん一緒にどうですか？」

カブトM「いいだろう…」

ファイズ「よし！！行くぜみんな！！」

とその時！！

闇のオーラが現れて中から回復したイエティとグールが現れる！！
ファイズ「！！！！お前ら！！！！」

ミューズ「あの時の!!」

イエティが首をボキボキ鳴らし

イエティ「ったくあのアホトリオ帰りが襲いから様子見に来てやったら伸びてやがったし!! まあお前らが音符持つてるだろうから!!」

グール「命令…奪取!!」

グールも歯を覗かせ不気味に微笑む

ファイズ「上等だ!! 言つとくがイエティ!! お前には今度は勝たせてもらうぜ!!」

指をイエティに向けて叫ぶファイズ!!

イエティ「ほう? 随分自身があるんだな? うん? なんだそのゴツイライダーは? 鈍そうだな」!! ははははは!!」

馬鹿笑いするイエティ

だが天道は静かにゼクターホーンに触れ

カブトM「おばあちゃんが言っていた…人を見かけで判断せず中身で判断しろ!! さもなくば自分が痛い思いをする…」

ホーンを少し押ししアーマーが全て少し浮く

イエティ「は? 何言つて…」

言い終わらない内に天道は

カブトM「キャストオフ!!」

天道はゼクターホーンを右から左に押し倒す!!

【Cast Off】

アーマーが散開し中から先ほどよりスマートなアーマーが出現し頭のカブトホーンが起立してカブトはマスクドフォームから第二戦闘形態のライダーフォームに変身する!

【Change Beetle】

その姿はまるで赤いカブトムシだった。

さらに散開したアーマーが残ったオルフェノクを吹き飛ばしイエテ

イとグールは驚く！！

イエティ「なに！！！」

グール「変身した……」

ファイズ達も驚き

ファイズ「天道さんその姿は！！！」

カプトR「これが俺の本当の姿だ……」

静かに言う天道

メロディ「凄い！！二段変身した……！！」 目がキラキラ！！

リズム「まるで昆虫の脱皮みたい……」

ビート「うん、確かに！！！」

そして全員戦闘態勢に入る。

キバE「グールは僕とメロディ達で相手をする！！キミ達はそのイエティを……！」

ファイズ「悪いけどイエティは俺一人でケリをつける！！天道さんはもう一体の方を……！」

その場にいたメンバー全員が驚く

メロディ「狼くん！！無茶だよ！！アイツ狼くんより強いのに！！」

リズム「みんなと一緒に戦うべきよ……！」

ビート「まさか……！自分ひとりで甲くんの仇を？そんなんでしょ……！」

……！！

ファイズは首を振り静かに言う

ファイズ「コイツだけは……！俺の手で倒す……！みんなの事を散々

馬鹿にしたコイツだけは……俺がケリを着けてやりたいんだ……！」

狼の決心は固く力強い言い方だった。

しばらく黙っていたミュージズが

ミュージズ「みんな……！私達はグールの方を倒そう……！」

メロディ「ミュージズ……！でも……！」

驚き戸惑うメロディ

ミュージズ「狼の決心は決して復讐や仇射ちじゃないわ……！みんなを

守る為の決心だと私そう思うの…」

真剣な表情で言うミユース

ビート「そう…なの？狼くん？」

心配そうな顔で聞くビート

ファイズは静かに頷き

ファイズ「俺はもう仲間を失うのはゴメンだ！！だから今度は！

！！絶対を守って見せる！！！」

指を再びイエティに向け力強く言う！

ファイズ「それに俺は一人じゃない！！心は仲間と繋がっているんだ！！！」

それを聞いていたメンバーは深い感動を受ける。

メロディ「わかったわ！！狼くん！！必ず勝つてね！！」

リズム「約束だよ？」

ファイズ「ああ！！約束だ！！」

イエティはあくびをしながら

イエティ「おい！！いつまで待たせるつもりだ」寝ころがり鼻

くそほじって待っている！！

ファイズ「ふん！！余裕がましてられるのは今の内だぜ！！」

そう言った時オートバジンがやってきて変形しファイズブラスターを投げ渡す！！

ファイズはファイズフォンを差込みもう一度変身コードを入力する。

【Awakening】

ファイズはブラスターフォームに変身した！！

イエティ「馬鹿だなその姿でも適わないってくらい…」

ファイズBF「一緒にすんな！！俺には新しい切り札がある！！」

そう言ってミッションメモリーに似たアイテムで金色のクリムゾンメモリーを取り出す！！

メロディ「それは？」

ファイズBF「俺の…新しい力だ！！」

ファイズBFはメモリーをセットする体制に入る！！
果たして何が起ころのか！！

続く！！

フギヤー！音符がぜーんぶ消えて目玉の怪物ガンQとカブト登場ニヤ〜【後編】

今回はいよいよファイズの新フォーム登場です！！

あと予定では昨日の放送のお話を取り入れようと思っておりますその時にキュアパッション登場させようかと…

では次回に

狼「俺の新フォーム！！期待してくれよ！！」

新たなフォーム！！クリムゾンフォームの力とカブトの激闘！！そして奪われ

今回は気合で書きました〜【めっちゃ疲れた〜】

いよいよこの話だけで初登場で最後の新フォーム登場です？

後カブトも激闘？します

気合が入った分俺が書いた中で名場面になったかも…

ではキバってSTART UP！！

新たなフォーム!!!クリムゾンフォームの力とカブトの激闘!!!そして奪われ

ファイズBF「行くぜ!!!」

ファイズBFがクリムゾンメモリーをファイズフォンにセットする
!!!

するとファイズブラスターが輝き

【「All Faiz System Limited off!
Crimson System Awakening」】

と音声がファイズブラスターから鳴り赤いスーツが金に染まって目が赤くなり究極形体ファイズクリムゾンフォームにフォームチェンジする。

メロディ「その姿は!?!」

ファイズKF「説明は後だ!!!コイツは60秒間しか使用できないんだ!!!」

【Start・up】

変身完了と同時に音声が右手首に装備されたクリムゾンアクセルから出る!

同時に狼はダッシュしてイエティに急接近する!!!

そして三倍まで強化された渾身のパンチを放ちイエティをぶっ飛ばす!!!!!!

ファイズKF「うおりやああああ!!!!!!」

あまりも凄まじいパンチ力にさすがの高い防御力を持つイエティでも防ぎ用が無かった為凄まじいダメージを受けながら吹き飛ばされ壁に激突してしまう!!!

イエティ「ぐ!!!がはあ!!!ゲホゲホ!!!なんてパンチ力だ!!!」

吹き飛ばされ壁に激突したイエティが口から血を吐きながらフラフラと立ち上がる。

グール「大丈夫か!!」

駆け寄ろうとするグールに対しイエティは

イエティ「来るな!!! コレは俺の戦いだ!!! お前は黙ってみている!!!」

グールは止まりおとなしく相手を睨んだまま動かない。

ファイズKFはそのままファイズブラスターをフォトンブレイカーモードにし相手を睨んだまま歩きだし

ファイズKF「痛いか!? だがコレは甲の死んだ時の痛みには比べたら屁でもねえぜ!!! 次にこれは!!!」

ファイズKFがブラスターを構え

ファイズKF「お前が命を奪った人々の分!!! はああああ!!!」
ブレイカーを思いつきり振りおろす。

イエティ「何を!!! くああああ!!! ああああ!!! 腕がああああ!!!」

反撃でパンチをするがかわされた拳匂両腕を三倍まで強化されたファイズブラスターBMで切り落とされ、切られた個所を押える事が出来ず出血が止まらない為苦しむイエティ!!!

プリキュア達は思わず目をつぶる!!!

ファイズKF「最後にコレは!!!」

ブラスターのEntarのボタンを押し地面にブレードを突き刺すと高くジャンプして巨大な黄金の円錐を作りロックする!!!

【Exceed Charge】

ファイズKF「俺を!!! 仲間を!!! 馬鹿にした分だああああ!!!
!!! うおおおお!!!」

凄まじい威力を誇るファイズKFの必殺技ファイズスマッシュがイエティに炸裂する!!!

イエティは必死でロックを外そうとするが両腕が無い為防げず身動きが取れなくなる。

イエティ「ぐあああああ！！！！この俺が！！この俺が人間ごときに！！うわあああああ！！！！！！」
大爆発を起こしファイズマークと共に爆散してバラバラになり消え去る！！！！

グール「馬鹿な…イエティが…」

グールはイエティが爆死したのが信じられず啞然としていた。

ファイズKF「終わったな…くっ！！！！」

着地し膝を突く。

【Time out】

時間が終わりノーマルのファイズに戻る！！

ファイズ「はあ！はあ！はあ！はあ！はあ！！」

メロディ「勝った！！！！凄い！！！！」

無邪気に喜ぶメロディ

リズム「凄いよ！！狼くん？」

狼が荒い息をしているので気づくりズム

狼は何故か苦しそだったのだ。

ファイズ「はあ！はあ！はあ！はあ！はあ！く！！やっぱり無理があったか

…」

突然ファイズギアとファイズフォンからバチバチと火花が発生し

【Error!Error!Error!Error!Error!】

の音声が狂った用にファイズフォンから鳴り響き強制的に変身が解除される。

ビート「変身が！！！！一体どういう事？」

狼は訳をちゃんと説明する

狼「はあ！はあ！はあ！じつ実はこのフォームまだ実験途中で…無理やり

実戦投入したんだ。だから…負荷が強すぎてオーバーロードした…
みたいだ！」

ミューズ「え！じゃあそのフォームまだ戦える状態じゃなかったの？」

驚きながら聞くミューズ

狼は頷き続ける。

狼「ああ！父さんに…頼んで無理矢理実戦投入させて…もらったんだ。父さんには…一回限り…しか変身出来ない…って言われてな。」

前日の夜の研究室

巧「狼！もう一度言うがこの力は確かに強い！！だがリスクも高いぞー！！」

クリムゾンメモリーを差し出しながら問う巧

狼「ああ分かっている！！だからこそ俺は…やりたいんだ。」

狼「俺は…メモリーのリスクは…知っていた。ファイズがダメージを受ける…事も…でもイエティを…倒すにはコレしか…方法が無かつたんだ。」

狼は疲れてヘタリこんでしまい

狼「後は…任せませ…」

狼は目をつぶりそのまま意識を失う

ビート「狼くん！！…」

ビートが彼を受け止め建物の上に置いてくる。

メロディ「狼くん…お疲れさま！！残ったのは…」

キバE「アイツだけだね。」

グールはさつきから黙って見ていたが

グール「貴様ら…全員…殺す！！！！！！うおおおお！！！！！！！！
凄まじい殺気がグールから出てグールの爪と歯が一瞬で倍の長さに

伸びグールは戦闘形態に変身した！！！！

ミューズ「な！なにあれ！！」

キバE「まずい！！奴は戦闘形態に！！！！うわああ！！！！」

言い終わらない内にグールが瞬足でキバEに接近して吹っ飛ばす！！！！

キバは吹き飛ばされ近くの壁に激突し！！

グール「ペ！」

ネバネバする液体で壁に貼り付けられてしまった！！

キバE「く！！体が！！！！」

キバット達も液体の下に埋もれて渡をサポート出来ない！！

キバット「ふがふが」【なんじゃこれ！！前みえねえ！！！！】

タツロツト「ふがふが」！！【前がみえませ〜ん！！！！】

コレを見たメロディはグールを睨み！！

メロディ「よくも渡さんを！！行くよリズム！！ミューズ！！」

リズム「ええ！！」

ミューズ「わかったわ！！」

3人はグールに戦いを挑む！！！！

メロディ「はああああ！！！！！！」

まずはメロディがパンチを連発するがグールはたくみに交わしメロディの腕を掴む！！

メロディ「しまった！！！！」

リズム「させない！！ミューズ！！」

ミューズ「ええ！！はあ！！！！」

リズムとミューズのキックが炸裂しグールが手を離すが反対の手でアッパーを放ち3人を空中に吹き飛ばす！！！！

3人「きゃああああ！！！！！！」

そしてミューズ以外の2人は地面に倒れグールがネバネバの液で2人をまとめて固めてしまう！！

2人「なっなにこれ！！！！」

ミューズは他の場所に叩きつけられた！！

ミューズ「いたたたた！！うゝ！！」

ビート「メロディ！！リズム！！ミューズ！！よくも3人を！！ビートソニック！！」

ビートが戻って来て、ビートソニックを放つ！！だがグールが突然吠えビートソニックがかき消されてしまいグールはビートに向かって瞬足で接近し2人同様ネバネバ液でビートを立ったまま捕らえてしまった！！！！

ビート「体が！！！！うっ動かせない！？」

残るはミューズとカブトだけになってしまった。

ミューズ「そんな！！これじゃあヒーリングチェストが使えない！！どうしよう！！」

グールのあまりの強さにミューズは恐怖を感じていた。

グール「残るはお前らだ…死ね」

すると今まで黙っていて動かなかったカブトが優しくミューズに話しかける。

カブト「心配するな…奴の動きは全て読み切った。後は任せろ！」

ミューズは驚き

ミューズ「あの動きを見切ったの！！」

カブトは静かに頷く

グール「死ねゝゝ！！！！」

グールがまた襲ってくる！！！！

カブトはベルトの横のスイッチに触れ

カブト「クロックアップ」

【Clock Up】

するとグールの動きが急にゆっくりになりミューズもその場に固まった用になってしまった！！

この現象はクロックアップと言い超高速の特殊移動方法でライダーフォームのカブトが、体を駆け巡るタキオン粒子を操作し、時間流を自在に行動できるようになったのだ。つまりカブトはファイズア

クセルと同様、我々の目で追えない程のスピードの世界に入ったのだ!!!

カブトは急接近しパンチとキックを交互に繰り返してドメに強烈なキックでグールは吹き飛ばし反対の建物に激突させる!!!
グールは何が起こったかさっぱり分からない様子で倒れていた。

【Clock Over】
クロックアップが終わり元の空間に戻る。

ミューズ「あれ!?天道さんいつの間に離れて?どうしてグールが?」

カブトがグールに背中を向けミューズに手短かに説明する。

カブト「クロックアップと言う超高速技でアイツを吹き飛ばした...」
静かに言うカブト

グールは怒り狂い叫びながら立ち上がりカブトに向かってくる!!!
グール「カブトオオオオ!!!」

ミューズ「カブト危ない!!!」
カブトは背中を向けたままベルトのゼクターを123の順にボタンを押す

【ONE TWO THREE】

ホーンを元の位置に戻した時グールが来た!!!

グール「死ねえええ!!!」

カブト「ライダー...キック!!!」

ホーンをまた引いて先程の位置に引つ張る!!!

【Rider kick】

音声と共に波動に変換したタキオン粒子がゼクターから頭に行き目が一瞬輝き...そして右足に流れ収束させグールの顔をカウンターキックで蹴りつける!!!

カブト「はあ!!!」

グールはライダーキックをまともに受けそのまま再び吹き飛ばされまた壁に激突し倒れた!!!

ミューズ「やった!!!倒した!!!」

無邪気に喜ぶミューズ

だがカブトは

カブト「まだまだ…奴は死んでない…」

ミューズ「え？ああ！！」

なんとグールが立ち上がったのだ！！

グール「く！！…馬鹿な…この俺の…スピードを…」

フラフラになりながらも立ち上がるグール！！

ミューズ「そんな！！直撃だったのに！！」

カブト「ライダーキックを受けても倒れないか…やっかいだな…」

ハイパーゼクターが突然出現しカブトが掴む！！

カブトはそのままベルトにセットし

カブト「ハイパーキヤストオフ！！」

【Hyper Cast Off】

全身のアーマーが内部にタキオンプレートを収納した、以前の2倍以上の強度を持つカブテクターに再構成され頭のカブトホーンが立派な物に変化し最後に後頭部と複眼の色が変わり、カブトの最強形態カブトハイパーフォームにフォームチェンジしたのだ！！

グール「なに！！」

ミューズ「姿が変わった！！」

カブトHは指を天に向け

カブトH「俺の進化は光より速い！！全宇宙の何者も俺の進化について来れない…」

といい放つ

グール「何だと！！」

そう言つて飛び掛ろうとした時！！

？「フォワ！！フォワ！！フォワ！！」

青い光の超人が光弾を放ちグールに命中しまたまた壁に激突する！それは屋根の上に着地し光が消えると青いウルトラマンでもう一人のウルトラマン！！アグルだった！！

そう！！先ほどアグルが放つたのはアグルスラッシュだったのだ！！

そしてアグルが地面に着地し

アグル【見つけたぞレジェンドルガ!! うん?】

カブトHに気づき声をかける

アグル【アンタは?】

カブトH「天の道を往き、総てを司る男だ」

アグル【? まあいい! こいつをやるなら俺も入れてくれ!!】

カブトHが頷き

ミューズはアグルに向かって言う!!

ミューズ「遅いじゃない!! なんでもっと早く来なかったの!!」

ポカポカとアグルを殴る!

アグル【わっ悪かった!! ゴメン!! オルフェノクが他の所で大量

発生して!! いて!! いて!! いて!!】

頭を押さえながら誤り

アグル【とつとにかく!! まずは!!】

アグルは立ち上がり腕をクロスし青い光で身動きが取れない四人を

解放する!!

メロディ「たつ助かった!!」

リズム「アグルありがとう!!」

ビート「一時はどうなるかと...」

キバも解放され

キバE「ありがとう!! これで戦える!!!!」

アグル【礼はいい!! みんな!! 行くぞ!!】

全員必殺技の体制に入る!!

四人「出でよ、全ての音の源よ!」

クレツシエンドトーンを召喚し

四人「届けましょう、希望のシンフォニー! プリキュア!! スイー

トセツション・アンサンブル・クレツシエンド!!!」

両腕をクロスしたままクレツシエンドトーンの金色の光の炎と一体

化して飛行し突撃する!

アグルはブライトスポットの前で腕をXの字に組んでエネルギー集

ゲージが点滅する。
とその時？が叫ぶ

？「ふははははは！……貴様らの音符！……確かにいただいたぞ！！」

それは変てこな乗り物に乗って笑いながら逃げているファルセット達だった。しかも苦勞？して集めた音符を全部ビンに詰めて！！

メロディ「あゝ！！！！ファルセット！！！！」

リズム「音符が！！！！返しなさい！！！！」

皆が抗議するが

ファルセット「うるさい！！！！誰が返す物か！！！！ではさらばだ！！！！」

トリオは消えてしまった。

カブトH「逃げたか……」

アグル【厄介な事に……【そろそろこの力を狼に渡すべきだな……】】
メロディ「どうしよう……音符が」

すると気絶していた狼が目覚め

狼「おゝいみんな〜！！！！」

数分後、狼は変身を解除したメンバーから事情聞き

狼「そうか……ファルセットの野郎！！！！俺達の音符を奪ったのか……」
頭をポリポリかき考え込む狼

エレン「どうしよう……このままじゃ不幸の楽譜が完成してしまうわ！！！！」

すると狼が

狼「まあ！！奪われた物は奪い返すまでだ！！それに不幸の楽譜は今日は完成しないぜ？」

響「へ？どういう事？」

アコ「完成しないって……」

狼がポケットからミニガンQを取り出し

狼「ガンQ！アレを出せ！！！！」

ガンQ「了解！キュ！！！！」

ガンQが目からなんと最後の音符を出したのだ!!!

四人「最後の音符!!!!」

渡「いつの間に!!!!」

海【つて怪物に預けていたのか!!!!】

狼「ここに来る途中で万が一の事考えてこいつに預けていたのさ!!!!」

得意げに言う狼

響「あはははは!!!!」

笑って力が抜ける響達だった。

一方のマイナーランド

アーク「よく探せ!!!!」 虫眼鏡で音符探しています!!

ファルセット「どつどこいった!!!!」

バスドラ「見つからねえ!!」

バリトン「な〜い! な〜い! な〜い!!」

全員で最後の音符を探していたそうなの?

続く

新たなフォーム!!!クリムゾンフォームの力とカブトの激闘!!!そして奪われ

今回は先週のファリーの事件を取り入れアレンジを加えたお話です
!!!

後ゲストプリキュアも出ます!!!

そしてガイアも進化して有名なあの姿に変わります!!!

最後にガンQ君を持ち運ぶ為大怪獣バトルでレイ隊員専用のあのアイテムも出ます!!!

では次回でお会いしましょう

劇場版で登場するファイズの設定（前書き）

この時までには頑張って考えたファイズの新フォームの設定です！！
ではどっぞ！！

劇場版で登場するファイズの設定

仮面ライダーファイズ ブラスターフォーム

原作同様ファイズの最強形態で全ての力が強化されスペックが増している。

ファイズブラスター

ブラスターフォームの変身にも用いるトランクボックス型トランスジェネレーター。原作同様計25種以上のパターンコードにより、必殺技の発動・ブラスター本体のモードチェンジ・オートバジンなどの制御が行える。

ファイズブラスター フォトンバスターモード

「103 ENTER」のコードを入力し「Blaster Mode」の音声が発せられた後、ボックスのアンダーパートを上方向へ180°展開・接合させることで完成する拡散フォトンブラッド砲。攻撃の際は一撃撃つ毎にポンプアクション式のショットガンと同じような動作をするが、弾丸を用いた攻撃ではなく、空薬莖が排莖されているわけではない。

またガイアメモリを挿入する箇所が砲台の横に追加された。

ファイズブラスター フォトンブレイカーモード

「143 ENTER」のコードを入力し「Blade Mode」の音声が発せられた後、フォトンバスターモード時の砲身部に刀身が生成されることで完成する大型フォトンブラッド剣。なお、砲身部は刀身生成時に分解され、ボックス内のサーバーに格納される。

仮面ライダーファイズ クリムゾンフォーム

本作オリジナルでファイズブラスターに付いたファイズフォンにクリムゾンメモリーセットする事で

「All Faiz System Limited off!
Crimson System Awakening」

と音声が鳴りブラスターフォームのリミッターを全て解除し誕生したファイズの究極形態で従来のフォームチェンジとは異なりブラスタフォーム自体の強化モードと言う珍しい分類に入る。

見た目はブラスタフォームそのものだが赤いスーツが金色に変化して目が赤いのが特徴。

また全てのスペックがブラスターの3倍にまで強化されておりブラスターの破壊力も通常の約三倍まで強化されている。ただし凄まじくギアや体に負荷をかけるため60秒間しか使用できない。

時間はアクセルより長いが変身と同時にタイマーが起動する為アイドリングできない。

アクセルフォーム同様の音声がクリムゾンアクセルから起動と終了に出る。

武器はブラスタフォームと同じである。

必殺技は巨大な黄金の円錐を出現させ相手をロックして放つファイズスマッシュ!!!

【珍しく必殺技の名前を叫ばないのが特徴】

別名 黄金のファイズ

劇中ではイエティを圧倒的な強さで倒すが、実験段階の物を無理やり急遽実戦投入した為ファイズギアがオーバーロードを発生し使用が一回限りになってしまった。

この時ファイズギアもかなりダメージを受けた為現在は使用不可能である。

クリムゾンメモリー

クリムゾンモードに変身する最に使用するメモリー
色は全て金なのが特徴でファイズの切り札でもある。

クリムゾンアクセセル

ファイズアクセセルによく似たウオッチ型アイテム

クリムゾンフォームの活動時間を制御するツールでファイズアクセセルの機能は入ってない。

デザインはファイズアクセセルとは左右反対であり右手首に着けている。

また起動はフォームチェンジ直後で自動的に発動する。

劇場版で登場するファイズの設定（後書き）

狼「どうだ！！俺の新フォーム！！強いだろ！！」

響「でも狼くん気絶したじゃない…戦った後…」

狼「…」 灰人になった

エレン「わわわ！！！！狼くんしっかり！！！！」

最後の音符を守れ！！キュアパッション登場とノイズの正体！！そして進化す

今回も前後編形式です！！

注目は和音がとんでもない技使う事とくらいかな？

ではキバってSTARTUP

最後の音符を守れ！！キユアパッション登場とノイズの正体！！そして進化す

あの激闘から三日後：

ここはいつもの広場で町は音楽会の準備で溢れていて北条団と王子

正宗そして特別参加の渡がいた。

彼らは打ち合わせをしながら

団「ここはもう少し強くだね？」

王子「はい！わかりました！」

笑顔で言う王子！！

渡「後ここはもう少し弱くしてみませんか？」

その部分を見た団は

団「そうだね！そうして見ようかな？」

色々話をしており奏は？

奏「はあ〜」

嬉しそうに憧れの王子先輩を見ていた！

奏「キャ〜！！王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先

輩！」

と連発する。

その後ろでは制服姿の狼、響、エレン、そして普段着のアコがいて

響「そっか！今日音楽会の日か！」

頭に手を乗せて話す響

奏「王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！」

狼「ふ〜ん！だから渡さん昨日嬉しそうに鼻歌歌っていたのか…」

腕を組み穏やかに言う狼。

渡は普段狼の住むアパートの隣の部屋で生活しており昨日渡は団か

らの誘いを受け入れかなりご機嫌になり鼻歌を歌ったのだ。

奏「王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！」

響「渡さんが？」

奏「王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！」

狼「ああ！楽しそうに鼻歌歌っていたぜ？」

奏「王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！」

響「いいな！私たちも参加したかったな！」

奏「王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！」

エレン「今はそれ所じゃないしね！」

奏「王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！王子先輩！」

3人「じく！！」 奏睨んでいます。

狼はワナワナと拳を握り口をピクピクし苦笑いしながら！！

狼「響からは奏が王子先輩に片思いなのは知っているけど・・・さ

つきから王子先輩！王子先輩って！！！！！！少しはこつちの話も聞

け！！！！！！」

軽いゲンコツが奏の頭に！！！！

【コン！！】

奏「イッタ！イ！！」 少し涙目！

狼の軽いゲンコツでやっと落ち着く奏だった。

奏「何も殴らなくても！！痛かった！！」

小さいタンコブを押えながら文句を言う奏

狼「ったく！！奏が俺達の話聞いて無いし！！大体こつちは今キヤ

〜キヤ〜言っている場合じゃないんだぜ！？」

呆れながら言う狼。

アコ「確かにそうね…こつちには音符一個しかないし…」

少し落ち込むアコを見たエレンは

エレン「大丈夫！！まだ取り返すチャンスはあるわ！！ね？」

優しく励ます。

アコ「うん！そうね！」

笑顔で答えるアコだった。

そのころのマイナーランド

アーク「見ろ！お前達！！」

楽譜を開いて3人に見せる！！

3人「おお！！これが！！」

それは後一つで完成する不幸の楽譜だった。

アーク「最後の一つはおそらくファイズとプリキュアが持っているだろう…バストラ！バリトン！行って来い！！」

2人「了解」

2人が出ていった後ファルセットが

ファルセット「アーク様！！なぜあの馬鹿共を行かせたのですか！

！ここは私が行くべきでは…」

片手で黙らせる。

アーク「ファルセットよ！実はお前ぬは別の任務を任せる！！それと会わせたい奴がいてな…」

ファルセット「？」

アーク「入れ…」

？「やっと拙者の出番でござるか…」

それはスパルトレジェンドルガだった！！

場面が変わりとある街角

そこに突然オーラが発生し中から一人の少女が現れた

せつな「ここがあの子達の…あら？」

自分の服装がラビリンスの服では無く普通の服装になっている事に驚くせつな

せつな「不思議…ってそうじゃ無かった！！」

彼女は走り出した！！

場面が変わりとある道

狼たちは道を歩いて散歩していた

響「そう言えばファイズギアはアレからどうなったの？」

狼はため息をした後

狼「全然駄目だ…多分この戦いが終わる頃にならないと直らないって言われたからな…はあ…!!」

落ち込みながら話す狼

エレン「でつでもまだ狼くん！まだ戦う力あるじゃない！！ね」

笑顔で言うエレン

コレを見た狼は少し赤くなり

狼「そつそつだな！！よゝし頑張つて音符取り返すぞ〜！！」

四人「お〜！！」

そう言つた直後狼のポケットから音楽が聞こえてきた。

狼「お？」

ポケットからネオバトルナイザーと言うアイテムを取り出す。

奏「それは何なの？」

狼「ああ！コレはネオバトルナイザーって言つてガンQをデータに変換して入れる為の通信機および召還機さ！まあファイズフォンも故障したからその代わりつて事」

このネオバトルナイザーは大破したファイズフォンに変わる通信機として狼の父親の巧がああ激闘の後ガンQを持ち運びする為に作ったのだ！！

ネオバトルナイザーが開き画面にメールが届いていた。

狼「メールだ！！え〜と」バスドラ達の反応確認！！至急隠れる！！

「か！！つてバスドラ！？」

響「え〜どこどこ？」

奏「あ！誰か来る！！隠れて！！」

全員草むらに隠れる！！

するとバスドラ達が変わてこな自転車？に乗つて現れる。

バスドラ「しつかし！この乗り物！冬きつついな〜！」 鼻水たら

しながら！！

バリトン「しかし後少しの辛抱！！不幸の楽譜完成まで音符は残り一つだからね」顔がバスドラに潰されて鼻水だしながら！！
バスドラ「よ〜し！！さつさと探すぞ〜！！待ってるよ〜プリキュア！！仮面ライダー！！うおおお！！！！」
凄い勢いで去って行った。

これを草むらで隠れて聞いていた響たちは？

響「ねえ聞いた？」

狼「ああ！バツチり聞いたな！！」

奏「不幸のメロディが完成するほど集まっていたなんて…」

エレン「残りの最後の音符は絶対に奪われない用に行けないわ！！」

アコ「って言うかその音符って…」

全員「ファリーを見る！！」

あの音符はガンQからファリーに移し変え預けていたのだ。

ファリー「ファファファファファ〜！！」

踊った後みんなに見られ

ファリー「きゃ！！」

ドリー「きゃ！！じゃないドド！！」

ドリーが見事に突っ込む！！

響「ファリーの中にある音符は世界の最後の希望なんだよ！！」

ハミィ「そうニヤ〜！！その音符が無くなったら世界が大変な事になるニヤ〜世界中が不幸でズンドコになっちゃうニヤ〜！！」

ファリー「ズンドコ！！」

2人はズンドコといいながら踊りだす！！

2人「ズンドコ！ズンドコ！！」

狼「ハミィ…お前間違っている…」頭押さえて

奏「ズンドコじゃなくてどん底でしょう？」

ミリー「ファリーはお調子者だから僕が音符を預かった方がいいミミ？」

するとファリーは
ファリー「ファリーは大丈夫ファファ!!足が速いし!!こんなに早く動けるファファ!!」
高くジャンプし道に飛び出してしまいするとタイミングが悪く先ほどの2人が戻ってきた!!

バストラ「うん!!あれは!!」

バリトン「フェアリートーンだ!!もしかしたらアイツが音符を持つて!!」

するとファリーはうつかり!!

ファリー「何故僕が音符持っている事知っているファファ!!!あつ!!!!!!」

慌てて口を押えるが!!

2人は怖い表情で笑い!!

バリトン「なら!!貰った~~~~!!」

腕を伸ばして接近する!!

五人はパニックになり

響「ファファリー!!!言っちゃ駄目~~~~!!」

奏「もっもう遅いわ!!なっ何とかしないと!!」

エレン「どっどうしよう!!」

アコ「えっえくと!!」

狼「こっこんな時はこっこれだ!!いけ~~~~!!ガンQ」

持っていたネオバトルナイザーが開き!!

【バトルナイザー!!モンスロード!!】

光が飛んで突然ガンQが通常サイズでいきなりバストラの目の前に出現したのだ!!

ガンQ「きゅるるるるる!!」

バストラ「なっなんじゃコイツは~~~~うっうわああああ!!!!!!」

太い足に激突し2人は伸びてしまった!!

2人「うっん!!!!!!」

狼「いつ今の内だ!!」

フアリーを回収して五人は町に向かってダッシュで逃げた!!

しばらくして町中

狼「ぜえぜえ!! あっ危なかった!!」

響「ここまでくれば…大丈夫よね?」

奏「これからどうする?」

エレン「向こうにもいずれ見つかってしまつかもしれないし…」

アコ「困ったよね〜フアリーを上手く守る方法ないかしら?」

全員悩む!!!

すると響が映画の宣伝のポスターを見つけて

響「あつ映画…そうだ!! いい事考えた!!」

3人「え?」

狼「?いい事?」

響はみんなの耳にヒソヒソと話して行く!!

一方のバスドラ達は?

子どもA「うわ〜!! 化け物!!! リアル気持ちわるい!!」

子どもB「なんかのパフォーマンス?」

バスドラ「俺達は見せ物じゃねえ〜ぞ!! あっち行け!! ガキ共!

」

子ども達から化け物扱いされめげながらも五人を探していた!!

バスドラ「くっそうガキに馬鹿にされるなんて…うん?」

バリトン「この姿…嫌いだ…どうしたバスドラ?」

2人は響達のアナウンスを聞いたのだ!!

響「町の皆さん!! 今! 私たちはフアリーと言う黄色い妖精の映画

を撮影しているんですが!!」

奏「そのフアリーは今!! 悪者に追われています!!」

エレン「フアリーを見かけたら助けてあげてください!!」

狼「お願いします!! 皆さん!!」

するとバスドラが

バスドラ「馬鹿な奴らめ！！よしこの町全体を…うん？」

アコと奏太が走って現れ

奏太「俺は正義の味方！！太陽仮面！！さあフェアリーが欲しかったら捕まえてみる！！」

フェアリー？を見せて挑発し言う

バリトン「その妖精をわたせ！！」

奏太「いやだよ！！べ！！」

逃げる二人！！

バスドラ「逃がすか！！」バリトンを棒のように持ち上げ

バリトン「？？？」

そのまま放り投げる！！！！

バリトン「ほげえ！！！！」電柱に激突！！！！

奏太は驚き動きを止めてしまった！！

バスドラが一気に接近し

バスドラ「さあ！！妖精を渡せ！！」

奏太「ほい！！」

投げ渡されたフェアリーをキャッチし

バスドラ「ははは！！随分マヌケなヒーローだな…ってあああああ
！！！！！！」

なんとバスドラがキャッチしたのは偽者で裏にハズレと書いてあつた。

奏太「やくい！！騙されてやんの！！」

バリトンも半分怒り状態になり！！！！

バリトン「バツバスドラ！！！！」

バスドラ「くつくくそう！！本物はどこだ！！出て来い！！」

怒鳴るバスドラ！！すると

フェアリー「読んだフェアア？」

フェアリー？が出てきた。

バストラ「見つけたぞ!!!今捕まえてええええええ?」

なんとフリーが沢山に分身していたのだ!!!

バリトン「どつどれが本物だ!!!」

ドリー「ドレが本物か探してみるドド!!!」

そう言つて散開する!!!

それバストラ達後を追つては町に入るが

バストラ達「なんじゃコリヤー!!!」

町中フリーだらけだった!!!

バストラ達は必死で本物を探す!!!

バストラ「コレか!!!な!!!」

アカンベーでハズレだった。

それは音吉が作った偽者だったのだ!!!

音吉「残念じゃったな!!!」

バリトン「コレか!!!な!!!掴めない!!!つて豆腐?」

それは天道が卵豆腐で作った偽者だった!!!

天道「豆腐と妖精を間違えるとは…情けない連中だ…」

それから役一時間後…

何度も捕まえてはハズレばかりなのでとうとう2人はバテテしまつた!!!

バストラ「あゝ頭いたゝい」

バリトン「お家帰りたゝい!!!うん?」

本物のフリーが通りすぎる。

フリー「ファファ!!!僕の勝ち!!!あつ!!!」

2人「いたああああああ!!!!!!!!!!!!」

また追いかけられるフリー

一方の五人はこの光景を見て

響「あれ?あの子フリーにそっくり…」

エレン「ホントね」

狼「本当にソックリだな」

アコ「何言ってるの！！！！アレは本物よ！！！！」

四人「え〜〜〜〜！！！！！！」

響「こつ言つ時は！！！！」

指笛を思いつき吹く！！！！

すると！？

和音「おたすけ和音ちゃん！！登場！！！！さて！！！！悪い人たち覚悟しなさい！！！！」

西島 和音だつた！！

そして和音はなんと足に炎をだしくるくる回って空中に浮かびドロップキックでボールを蹴る！！！！

和音「ファイヤー！！！！トルネード！！！！いけ！！！！！！！！」

物凄い火だるまボールがバスドラの顔面に直撃した！！！！

バスドラ「ぐおおお！！！！がはあ！！！！あちいよ！！！！」

響「和音ナイス！！！！つて何今の技？」

和音「秘・密・だ・よ」

バリトン「バスドラ！！！！うん？お前は！！！！」

それはホイップを両手で持った奏の憧れの先輩の一人！！東山 聖歌だつた！！

聖歌「弱いものいじめはいけませんわね…フフフフ…」

聖歌はあつという間にバリトンをケーキにしてみました！！

奏「聖歌セン〜パ〜イ！！」

バリトン「辞めてください！！聖歌先輩〜！！」 釣られて言った？

そして王子 正宗が率いる音楽王子隊が突然現れ

全員「悪い奴らは僕達が許さないよ？」

そう言つて二人を縛る！！

奏「キャ〜！！キャ〜！！キャ〜！！王子センパ〜イ！！」 大興奮

バストラ「くっそ〜!!なめやがって!!うん!!うわわわ!!
来るな〜!!むぎゅ〜!!」

女子生徒「きゃあああ!!!王子セン〜パ〜イ!!!」

沢山の女子生徒に踏まれて伸びてしまふ二人だった。

バストラ「もういやだ…」

バリトン「帰りたいうっうん？」

2人が広場で座り込んでいると突然雷が落ちてきて…

2人「ぎゃああああ!!!」

2人は気絶してしまった!!

そして立派な漆黒のマント姿の仮面ライダーアークが降臨した!!!

アーク「まったく!!!情けない連中だ!!!役立たずめ!!!ここからは私がやるっ…」

そう言つてアークは

アーク「ここに降臨しろ!!!ネガト〜ン!!!」

凄い声で叫び隠れていたファリーの音符がファリー本人と人形や模
型を吸収し巨大ニセファリーネガトーンを生み出してしまった!!

狼達メンバー以外の人々が一斉に泣き始める!!

団「だつだめだ〜!!!今回は耐えられん〜!!!」

渡「北条さん!!!く!!!」

渡はブラッディローズが守ってくれているので問題は無かった。

狼達も駆けつける!!

狼「お前一体そこで何している!!!」

アークが振り向く

アーク「む!!!ファイズ!!!プリキュアか!!!」

響「ネガトーンを生み出しのはあなたね!!!」

奏「あなた!!!何者なの!!!」

アークは静かに

アーク「我が名はアーク…レジェンドルガの王だ…」

狼「王だと?」

エレン「と言う事は昔メイジャーランドを攻めた…あのアーク！」
音吉と渡も駆けつけ

音吉「なんじゃと！！アークどうして貴様がここに！！」

アーク「決まっている…最後の音符を回収しにきたのだ…これ以上喋る事は無い！！さっさと貴様らも変身しろ！！」

これを聞いた6人は

渡「キミの野望…止めて見せる！！キバット！！タツロット！！」

キバット「よっしゃ〜！！今日もキバって行くぜ！！ガブ！！」

渡「変身！！」

キバットが渡の手を噛み一瞬でキバEに変身してマントをなびかせる！！

キバE「はあ！！」

狼「おまえに音符は渡さねえよ！！ガイアアアア！！！！」

取り出したエスプレnderを両手で構え叫び！！赤き光と共に等身大のガイアに変身して地響きと共に降臨した！！

ガイア「ジユワアアアア！！！！！！！！」

四人「フアリーは絶対に渡さない！！！！」

四人「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション」

メロディ「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

四人「届け、4人の組曲！スイートプリキュア！」

ポーズを決める4人！

アーク「ほお！！ファイズでは無さそうだな…何者だ…」

ガイア【俺はウルトラマンガイアだ！！さあ！！行くぜアーク！！】

全員戦闘態勢に入る！！

いよいよ音符を賭けた戦いが始まるのだ！！！！
続く！！

最後の音符を守れ！！キュアパッション登場とノイズの正体！！そして進化す

いかかでした？

今回はイナズマイレブンのファイヤートルネード出してみました

！！！！

和音「あの技があればゴールは楽勝だね？作者さん？」

そうだね！！あちなみになぜイナイレ出したかと言うと…それは好きだからさ！！！！

さあみんなもサッカーやろうぜ！！！！…嘘です！！！！すみませんね

では次回の後編はバトル&パッションとノイズ参戦です！！お楽しみに

最後の音符を守れ！！キュアパッション登場とノイズの正体！！そして進化す

ふっ！！なんか予定より早く書き終わったな…

今回でガイアはV2にパワーアップします！！

そしてキュアパッションがいよいよ登場します！！

どうやってこの世界に来たかは…本編で！！！！

ではキバってSTART UP！！

最後の音符を守れ!!! キュアパッション登場とノイズの正体!!!そして進化す

アーク「ガイアか…面白い!!! 行けネガトーン!!!」

ネガトーン「ネガトーン!!!」

ネガトーンがファリーの分身を出して攻めて来た!!!

メロディ達「はあああ!!!」

ガイア「ジユワ!!!」

キバE「はあああ!!!」

分身を迎え撃つメンバー!!!

だが!!!

【ドカ〜ン!ドカ〜ン!ドカ〜ン!】

メロディ達「きゃああ!!!」

ガイア「ガアアアア!!!」

キバE「うわあああ!!!」

なんと分身が触れた途端爆発し全員吹き飛ばされてしまった!!!

ガイア【く!こいつら誘爆する分身か!!!】

立ち上がりながら言うガイア

メロディ「どうしよう…!これじゃあファリーを助けられない!!!」

困惑するプリキュア達

するとキバが

キバE「接近戦が駄目なら!!!これだ!!!はああああ!!!」

ザンバットソードを取り出し衝撃波で的確に分身を倒す!!!

キバE「はあああ!!!やあああ!!!」

これを見たガイア達は

ガイア「【なるほど!!!接近しなければ!!!く!来た!!!】ジユ

ワ！ジュワ！ジュワ！」

ガイアスラッシュと言う低出力の赤い三日月状の光弾で分身をやっつける！！

ビート「ビートソニック！！！」

ビートもビートソニックで分身を片付ける！！

キバE「狼くん！！僕が分身を片付ける！！キミ達は本体を！！！」
剣を振りながら言うキバ

ガイア【ああ！！わかった！！お願いします！！みんな！！行こう！！】

リズム「オツケ」

五人は分身をかわしながら接近し！！

ガイア「行くぜ！！みんな合体キックだ！」ジュワアアア！！」

四人「プリキュア！スイートハーモニーキック！！スペシャルバー
ジョン！！はああああ！！」

五人のキックが炸裂する！！

ネガトーンが倒れメロディが接近し

メロディ「フアラー！！！！！」

フアラー「メロディ！！！！！」

フアラーを無事に救助する！！

ガイア【よし！！あつメロディ危ねえ！！！！】

ネガトーンの分身がメロディに襲い掛かりメロディはかわす事が間に合わず！！

メロディ「きゃああああ！！！！！！」

凄いダメージを受けるメロディ

リズム「メロディ！！！」

全員駆け寄る！！

メロディ「うゝー!!」

傷だらけのメロディは何とかファリーは守っていた。

ビート「メロディ……」

メロディはとても動ける状態ではなかった。

さらに分身が全員を襲ってくる!!!

ガイア【く！くそう!!!数が…多すぎる!!!】

キバ「なんて事だ…ハッ!!!危ない!!!」

ビート「いけない!!!」

スラッシュと衝撃波そしてソニックで応戦し守りに入るビートとガイアとキバだったが数がさらに増えるだけでとうとう追い込まれてしまった!!!

リズム「このままじゃ…」

キバE「まずい!!!うわあああ」

落としきれなかった分身が向かってきたのだ!!!

ガイア【やめるおおおお!!!!!!】

ガイアが体を…背中を盾にして皆を…メロディを分身から守る!!!

ガイア「ジュワアアアアア!!!!!!」

激しいダメージを受け!!!そしてガイアのライフエナジーが激しく点滅する!!!

【ピコ!ピコ!ピコ!ピコ!ピコ!】

メロディ「狼く〜ん!!!」

思わず手が出るメロディ!!!

ガイア「ジュツワアアア…」

その手を掴もうと中で指を動かし…そしてそのまま仰向けに倒れ目の光を失うガイア。

ミューズ「ガイア!!!くっ!!!シの音符のシャイニング…駄目!!!間に合わない!!!」

ミューズも応戦に加わろうと技を発動したが間に合わなかった!!!

ミューズは恐怖で目をギョツとつぶり
ミューズ「誰か!!!助けて!!!」
と心で叫ぶ!!!

残りの分身が迫り!!!絶体絶命のピンチ!!!だがその時!!!
?「チェンジ!!!プリキュア!!!ビートアップ!!!」

声が響いた後

?「プリキュア!!!ハピネスハリケーン!!!」

突然赤い光のハートと羽毛の激しい旋風が分身を追い払い!!!そしてそのままネガトーンを吹き飛ばしたのだ!!!

そしてピンクの髪と赤い衣装を身にまとったプリキュアがメロディとネガトーンの間而降り立つ!!!

アーク「なに?」

?「大丈夫?みなさん!!!」

リズム「一体何が?あ!あなたは!!!」

メロディ「たしか!!!あの時一緒に戦った!!!あれ?怪我が治っている?」

それはキュアパッションだった!!!そしてメロディが直ったのは彼女の力を受けたお陰だろう!!!

アーク「新手か!貴様何物だ!!!」

パッションは

パッション「真つ赤なハートは幸せの証!熟れたてフレッシュ、キュアパッション!!!」

とポーズを決める!!!

アーク「キュアパッション?」

アークは困惑してしまった!!!何故なら自分の持つデータには無いプリキュアだったからだ

一方初めて見たメンバーも驚く!!!

ビート「キュアパッション?」

ミューズ「初めて見るプリキュア？一体どういう？」
するとパッションが

パッション「話は後よ！！今はネガトーンを！！」

ビート「はっはい！！」

ミューズ「わかったわ！！」

キバE「わかった！！協力しよう！！ああ！！ガイア！！」

ガイアはまだ倒れたままだった。

メロディ「狼：くん？」

リズム「起きて…起きてよ！！狼くん！！」

ガイアの目に光が突然戻った！！

ガイア【俺は…まだ戦いたい！！仲間を…仲間を守る為に！！】
必死に起き上がるうとするガイアだが力が入らない！！

ガイア【く！！体に力が…ここまでか…】
？「諦めるな！！！！」

すると海が何所から無く屋根の上に現れ！！

海「狼！！お前にはまだ戦える！！この力を！！受け取れ！！」

ガイア【え？】

アグレイターを構えると青い光が飛び出しガイアに向かって飛んでいき胸のライフゲージに入る！！

するとガイアのライフエナジーが点滅から回復し立ち上がって輝きだした！！

ガイア「【力が…力がわいてくる！！うおおおお】ジュワアアアアアアア！！！！！！」

胸のガイアプロテクターが赤から黒に変わりガイアはガイアV2にパワーアップして本当の力を取り戻したのだ！！

ガイアV2「ジュワ！！！！【これは？】」

海「それが本当の力を取り戻したガイアだ！！行け！！狼！！」

ガイアはうなずき

ガイア【なるほど!!!今ならみんなを守れる!!!うおおお!!!】
ガイアV2はネガトーンに接近し右ストレートを一発打ち!次に怯んだ相手に左手でアッパーを放つ!

そして両手でネガトーンを掴みプロレス技でねじ伏せる!!

ガイア「デユワアアア!!!」

メロディ「すっすごい!!今までより力が上がっている!!!」

リズム「パワーアップしたみたい...」

ビート「しかも若干姿が変わっている...」

ネガトーン「!!!!!!!ネガトーン!!!」

そして空中に放り投げると!!

ガイア【いけ〜みんな!!!】

五人「はああああ!!!!!!」

復活したメロディと共にパッションが加わった五人のパンチが炸裂する!!!

五人「プリキュア!!!クロスパンチ!!!」

そしてキバも!!

キバE「はああああ!!!!!!」

連続攻撃が空中で炸裂し最後にかかと落としてトドメを差す!!

キバE「たああああ!!!」

地面に激突するネガトーン!!!

そして全員が地面に着地し

ガイア【よし!!!トドメだ!!!】

キバE「行くよみんな!!!」

メロディ達もうなずく!!!

四人「出でよ、全ての音の源よ!」

クレッシェンドトーンを召喚し

四人「届けましょう、希望のシンフォニー!プリキュア!!!スイー
トセクション・アンサンブル・クレッシェンド!!!!!!」

両腕をクロスしたままクレツシエンドトーンの金色の光の炎と一体化して飛行し突撃する！

四人「はあああああ！！！！！！」

ガイアV2は腕をT字型に組んでエネルギーを溜め、右腕をL字型に構え直して左手を右腕の関節に乗せてクァンタムストリームを放つ！！！！

ガイア「ジュワアアアア！！！！！」

パッション「歌え！幸せのラブソディ！パッションハーブ」

パッションハーブを再び呼び出し、

パッション「吹き荒れよ！幸せの嵐！プリキュア！ハピネスハリケーン！！！！

回転して赤い光のハートと羽毛の激しい旋風で敵を包み込む！！

キバE「はあああ！！！！！！」

タツロットを引き

【ウエイクアップ！！フィーバー】

エンペラームーンプレイクを発動しネガトーンに向かう！！

そして全員の技がヒットしネガトーンは浄化される！！

四人「ファイナレ！！！！！」

そして音符が出てきて

アーク「く！！だが貰った！！！！」

キャッチしようと走るアーク！！

ガイア【させるか！！！！】

キバE「渡さない！！！！」

ガイアとキバがダツシュしてアークに強烈なキックを食らわせ近くの壁に吹き飛ばす！

アーク「ぐあああ！！！！！！」

その隙にミュージズが走って音符に手を伸ばす！！そしてキャッチした！！

ミュージズ「やった！！音符取ったよ えっ！！ちよつと！！」
つとその時！突然ピーちゃんが現れ音符をミュージズから奪い取ったのだ！！

ミュージズ「ちよつと！！ピーちゃん！！返して！！いい子だから」
ミュージズはどうかやらピーちゃんがイタズラで取ったと思ったらしくピーちゃんに言う。

するとキバットがこのピーちゃんから凄まじい何かを感じ取り。

キバット「この気配…まさかおまえ！！ノイズか！！」

ミュージズ「え？キバットなにいつてるの？ピーちゃんがノイズの訳が…」

突然ピーちゃんが泣き叫ぶ！！

ピーちゃん「ぎゃあああああ！！！！」

それはこの世の中で一番恐ろしい声だった。

ミュージズ「ピーちゃん？」

恐ろしい声に動揺しながらもピーちゃんに話しかける…

アーク「おお！！その声は…ノイズか！！！！」

アークがようやく戻ってきてきてノイズの声を聞いて嬉しそうに言う！！
そしてピーちゃん…いやノイズはアークの肩に止まり音符を渡す！！
そして

ノイズ「久しぶりだな…アーク…我が友よ…」

なんとノイズが喋ったのだ！！

メンバーは驚きミュージズは

ミュージズ「うっ嘘よ！！！！あなたが…あなたがノイズの訳が…」

ショックで動揺するミュージズ

そして言い終わらない内にノイズが
ノイズ「全て事実だ…小娘よ…それと礼を言おうプリキュアの諸君
とキバ！そしてガイア…キミ達のお陰で私は早く復活出来る…」
静かに言い放つノイズ

ガイア【なんだと！！ふざけるな！！！】

メロディ「ミューズの気持ちを踏みにじったあなただけは！！！」

2人「絶対にゆるさねえ【ない】〜！！！」

ガイアとメロディが怒りでアーク達を攻める為走りだす！！

リズム「2人共待って！！！」

だが2人は聞いてなかった！！

ガイア「ジュワアアア！！！！！」

メロディ「ハア〜！！！」

だがアークは簡単にかわし飛び上がった後

アーク「悪いがもうここに用はない・・・」

ノイズ「さらばだ…」

そう言っバストドラ達も回収し消え去った。

ガイア【く！！逃がしたか】

この後全員元の姿に戻る。

せつな「初めまして皆さん！！わたし東せつなって言います。よろ
しくね？」

笑顔で挨拶するせつな

狼「ああ！！よろしく！！俺は犬上 狼だ！！宜しくな！！…いや
…宜しくお願いしまふ！！いへえ〜！！しひゃかんじゅわった！！

【いてえ〜舌噛んじゃった】」 急に礼儀正しく挨拶しようとして
舌噛んだ！！

せつな「あらら！！大丈夫？」

心配するせつな

狼「だいひょうぶでふ【だいじょうぶです】」

響「何やってんだか…では改めて…！…あたし北条 響です…！」
奏「南野 奏です…！あの時はありがとうございました…！」
元気に挨拶するふたり！

せつな「え？ああ…！あの時の戦いね？」

2人はうなずく！もちろん狼達は？状態だった。

エレン「わっ私はくっ黒川 エツエレンです…！せつ先輩…！よっ
宜しくおっお願いしつします…！」

何故かに緊張しながら挨拶するエレン…！どうやら相手が自分より
年上だと勘違いしているらしい

せつな「エツエレン緊張しすぎ…！おっ落ち着いて…！私同い年だ
から…ね？」

アハハと半笑いしながらエレンに言うせつな。

狼&エレン「え〜そうなの…！」

2人はせつなが大人びて年上に見えたようだ…！

狼「あ〜なんか緊張した〜」

エレン「うん…あたしも…！」

そしてアコも

アコ「調辺 アコです…！助けてくれてありがとうございます…！せつなさん…！
するとせつなは

せつな「アコちゃんだっけ？せつちゃんていいよ？」

アコは照れながら

アコ「あ…！うん…！」

海も降りて来て

海「藤宮 海だ…！宜しくな…！」

せつな「ええ…！」

渡「僕は紅渡！宜しくね？せつなちゃん？」

せつな「はい！宜しくお願ひします…！」

音吉「アコの祖父の調辺 音吉じゃ…！しかしキミは何所から来たん
じゃ？」

せつな「わたしは…！」

話を始める

せつな「わたしはラビリンスと言う国…つまりパラレルワールドからやって来てラブ達とプリキュアとして戦い今はラビリンスの再建をしているの…そんなある日…」

場面が変わりラビリンス

ラビリンスのマザーコンピュータの修復作業を進めるせつながいた。
市民A「せつなさ〜ん！お茶が入ったので休憩にしませんか？」

せつな「ええ！！今いきますー！！」

市民A「じゃあ先に行つてま〜す」

お互いに手を振り

せつな「さて！！休憩しようかしら…」

そう言つて階段を降り始めた時！！！！

突然オーラが後ろで発生したのだ！！

せつな「え？」

振り返るとそこにはデイケイドが立っていて

デイケイド「キミがフレッシュプリキュアのキュアパッションか？
と聞かれる

せつな「！！だれ！！なんでわたしの事を！！」

驚きながら戦闘態勢を構えるせつなだったがデイケイドは手を振つてから

デイケイド「安心しろ…俺は敵じゃない…キミに頼みがあるからこ
うしてきたんだ…」

せつなは驚き

せつな「え？頼み？」

デイケイド「そうだ…担当直入に言つ…キミにスイートプリキュア
の世界に行つて欲しいんだ…」

静かに言つてデイケイド

せつな「スイートプリキュア？まさか！！あの戦いで一緒に戦つた

！！」

思い出して驚き戦闘態勢を解く。

せつな「どうして彼女達の世界にわたしに行って欲しいの？」

デイケイドはまた静かに言う

デイケイド「その世界で今レジエンドルガの王のアークとネガトーンを操るノイズと言う連中が世界中の幸せの音楽を消そうと企んでいる…奴らは不幸の世界を作るつもりだ…本当は俺が助けてやりたいが…今は他の世界で手が一杯でそこに行けないんだ…アカルンの力を持つ君なら次元を超えて助けに事が出来る…どうだ？行つてくれるか？」

デイケイドがそう言つて指を鳴らす！！

するとスイートの世界に繋がるオーラがせつなの後ろに出現した。

せつなは暫らくオーラを見つめて黙り

せつな「わかつたわ…その頼み引き受ける！！同じプリキュアとして私精一杯、頑張るわ！」

それを聞いたデイケイドはうなずき背中を見せて立ち去ろうとする。

せつな「待って！！あなた名前は？」

デイケイドは背中を向けたまま

デイケイド「門矢士…通りすがりの仮面ライダーだ…覚えなくていい…」

と言つてオーラに入り消えていった。

スイートの世界に繋がるオーラを残して…

響「士さんが…あなたをここに？」

せつな「ええ！！彼はそう言つて何所かに消えたの…」

狼「通りすがりの仮面ライダー…デイケイドか…会つて見たかったな…」

渡は黙つてこう思つていた

渡【デイケイド…ありがとうコレで戦いが楽になる…】

一方のマイナーランド

アーク「ふははははははは……遂に……！音符が全て揃ったぞ……！！」

次回に続く

最後の音符を守れ！！キュアパッション登場とノイズの正体！！そして進化す

今回はキュアマジョーレの秘密と決戦に備えるお話です。

狼「次回をお楽しみ！！」

近づく決戦!!狙われるキュアモジューレ?驚く真実!! (前書き)

今回はちょっとしんどいのであまり展開が進まないかな? :

それと次回でも登場するG3先行登場です

ではキバってSTART UP!!

近づくと決戦！！狙われるキュアモジューレ？驚く真実！！

最後の音符が奪われてから一週間…狼たちは調べの館にいた。せつなと海以外の全員「はあ〜」
とため息をしていた

響「どうしよう…不幸の楽譜が…完成しちゃったよ〜！！」
頭抑えて

狼「厄介な事になったな〜どうしようか渡さん？」

渡「僕に言われても…う〜ん」

水面にはアフロディテも写っていてニッコリ笑い

アフロディテ「みんな！！実はねあの楽譜にはまだ秘密があるのよ？それに楽譜はまだ完成しないわ」

全員驚く！！

アコ「え？ママどういう事？」

アフロディテ「それはね…」

場面が変わりマイナーランド

アーク「さて…ファルセット…歌え！！」

ファルセット「は！！では！！」

ファルセットはアレからずっとこの楽譜を歌う練習を命じられていたのだ。

そして完成した？楽譜を開き歌おうとしたその時！！ト音記号が飛び出してゴナゴナに砕け散ってしまったのだ！！

ファルセット「な！！これは！！」

驚くファルセット。

ノイズ「アフロディテめ！！偽者を楽譜に仕込んでいたのか！！くそう！！」

怒鳴るノイズ

だがアークは

アーク「落ち着け友よ…本物のト音記号は奴らがもっているハズだ…」

アークは冷静に言う

ノイズ「お前！！プリキュアが本物を持っている事に気づいていたのか！！何故もつとはやく…」

アーク「いや…俺もコレが本物かどうかは分からなかった…だから今確かめたのだ…」

どうやらアークは初めから疑っていたらしい。

アーク「それに俺はこんな事をしたアフロディテは許さん…だから今頃アイツが…フッフ」

なにやら不気味に笑い

ノイズ「ええい！！もういい！！バスドラ！！バリトン！！キュアモジューレを奪って来い！！」

バスドラ「は？はい？」

バリトン「何故キュアモジューレを？」

ノイズ「俺の考えが正しければ…あの中にあるのは…」

場面が変わり再び調べの館

四人「え〜！！キュアモジューレの中にあるト音記号が本当のト音記号〜！！」

びっくりする全メンバー

狼「マジかよ！！」

渡「そうだったのか！！でも何故そんな大事な事を早く言ってくれなかったのですか？」

アコ「そうだよママ！！なんで黙っていたの？」

アフロディテはニツコリ笑い

アフロディテ「騙すならまず味方からって事よ」

全員ずっこけた。

狼「【アコママなんかユニークだな〜】でもそうになると…みんな

のキュアモジューレが今度は狙われるな…」
響「なにか対策しないとね…」

こうして次の日

学校では響は和音サッカー部の助っ人！！奏はスイーツ部で聖歌先輩とお菓子作りをしていた。

一方の狼とエレンとアコそしてハミイは？

狼「かあ〜！！うめえ〜な！！焼き芋って！！」

全員公園のベンチに座って何故か焼き芋を食べていた。

エレン「うん！本当！！」

ハミイ「最高にや〜」

アコ「でもものんびりしていいの？」

アコが心配する。

狼達はは食べるのを辞め…

狼「その事なんだけどさ…俺は最後の希望を守るぜ！！」

力強く言い

狼「この世界を不幸になんかせせない！！だから俺はもっと強くなる！！」

エスプレンダーを取り出して言う！！

エレン「そうね…頑張って最後の希望を守りましょう！！」

とそこにせつなが現れた

せつな「あら？こんな所四人でそろって買い食いかしら？」 少し

いじわるな笑顔で

狼「げ！！」

エレン「う！！」

アコ「！！」

驚いてびっくりする四人

せつな「フフフ 大丈夫 何も言わないから…それより…少し相談があるんだけどいいかしら？」

全員この後せつなのお話を聞くのであった。

突然ネオバトルナイザーに連絡が入ったのだ。

狼「うん？兄貴からだ？」

画面を開くと向こうからの通信が入って来た。

成二「みんな！聞いてくれ！！民間人の少女2人がファルセットに捕らわれたようだ！！至急救援に向かってくれ！！」

狼「なに！！ファルセットが！！」

驚く狼

響「なんか嫌な予感がする…その捕らわれた少女って名前分かりますか？」

成二「西島 和音と東山 聖歌だ…場所は時計塔の付近らしい…」

奏「そんな！！どうして！！」

シヨックを受ける奏！！

狼「奏！！今は急いで助けるのが先だ！！行くぞ！！」

それから数分後

メンバーが到着するとファルセットが気絶した和音と聖歌を縄で縛り自分の足元で膝まつかせていた！！

響「和音！！」

奏「聖歌先輩！！」

近寄ろうとすると

ファルセット「おっと！！近寄るな！！こいつらを帰して欲しければお前らの変身アイテムをよこしてもらおうか？」

意地悪そうな笑顔で言うファルセット

狼「それでその2人を解放するか？」

以外にも静かに言う狼

ファルセット「ああ！！もちろんだ！！」

響「だけど狼くん…」

腕で狼がさえぎる

狼「言うとおりにすればあの2人は解放される…仕方ない…」

そういつてあっさりエスプレnderをファルセットに投げ渡した…

響「く!!」

四人もキュアモジュールを投げ渡した!!

ファルセツトは変身アイテムを受け取ると二人をこちらに蹴り飛ばす!!

エレン「ちよつと!!なんて事を!!」

怒るエレン!!

ファルセツト「うるさい!!」

そしてサイガドライバーを装着し

ファルセツト「コレで貴様らを抹殺…」

いやらしい笑顔で言うファルセツトだったが

狼「いや!!爪が甘いのはお前だ!!!!みんな!!!!受け取れ!!

!!来いガンQ!!!!」

ネオバトルナイザーを取り出し叫ぶ!!

【バトルナイザー!!モンスロード!!】

ガンQを呼び出し!!

ガンQ「みんな!!受け取ってキュウ!!」

なんと変身アイテムが目玉から飛び出してきたのだ!!そして最初

に狼が本物のエスプレンダーをキャッチする。

ファルセツト「な!!なに!!」

狼「おまえに渡したのはせつなちゃんか昨日作った偽者だ!!!!本

物はコイツに隠していたのさ!!」

ファルセツト「な!!なんだと!!」

響「どつどついうこと?」

奏「????????」

エレン「こういう事なの」

笑顔で説明する!!

数時間前

狼「へ?俺たちの変身アイテムをガンQに?」

せつな「うん、みんなのアイテムを隠すならそこが安全なって?そ

れとね…後コレを」

本物ソックリなニセ変身アイテムを取り出す。

エレン「これって…!!」

アコ「そっくり…!!これならマイナーランドも騙せる…!!」

エレン「つと言つ訳」

笑顔で言うエレン

響「え〜じゃあ…!!3人共初めから知っていて渡したの…!!」

奏「なんで教えてくれなかったの〜!!」

狼「騙すなら?」

エレン「まずは味方」

アコ「つて事」

コレを聞いたファルセットは怒り…!!

ファルセット「貴様ら…!!許さん…!!おいお前達…!!空中に浮いているキュアモジューレを回収しろ…!!」

2人「了〜解〜」

隠れていた二人が浮いていたキュアモジューレを奪い取ってしまった…!!

響「しっしまつた…!!」

奏「わっ忘れてた〜…!!」

バストラ「間抜けめ〜コレで楽譜は…!!…!!なんだ…!!…!!」
キュアモジューレから光が溢れ二人を包む

バストラ「なんだ?この安らく気持ちちは?」

バリトン「暖かい光だ…」

そう言った直後2人は怪物になる前の姿になつた…!!

ファルセット「なに…!!」

その場にいた全員が驚く…!!

響「え〜…!!…!!」

奏「なんで〜〜〜〜！！！！」

狼「キュアモジューレの中にある光があいつらの闇を浄化したのか
…あいつらもノイズに操られた存在ってことなのか？」

エレン「あの2人も以前のわたしと同じ…」

そう言った直後

バストラ「プリキュアのみんな！！受け取れ！！！」

そう言つてキュアモジューレを響たちに投げ渡す！！

ファルセット「な！！なにやっている！！馬鹿！！！」

だがバストラ達は

バストラ「ふん！！俺たちは本当の使命を思い出したのだ！！もう
貴様のいう事など聞かないぞ！！！」

ファルセット「なん…だと…」

驚くファルセット

バリトン「我々本来の役目は幸せの楽譜を守る事！！だがノイズの
せいで我々は洗脳されて悪人にされてしまったのだが…これ以上貴
様の思い通りにさせん！！！」

指をファルセットに突き付ける！！

ファルセットはワナワナと振るえ

ファルセット「許さん！！許さん！！許さ〜ん！！変身！！！」

【Statting・by!complete】

サイガに変身し

サイガ「ノイズ様！！今こそお力を！！！」

すると邪悪な雷がバストラ達に落ちて再び洗脳しようとする！！

バストラ「ぐああああああ！！！！！」

バリトン「うわああああああ！！！！！」

苦しむ二人…

バストラ「たっ助けてくれ〜！！！！！」

それを見た狼はそうはさせないと！！！！

狼「そいつらを悪には染めさせねえぜ！！正しい心を持ったそいつ

らは俺達の光で浄化して救ってやる！！！！ガイアアアア！！！！！！
！！
エスプレンダーを両手で構えて叫ぶ！！

赤と青の二つの光が狼と重なりガイアV2が地響きを立てて出現する！！

ガイア「デュワアアアア！！！！！！」

響「2人を闇から救って見せる！！みんな行くよ！！」

3人はうなづく

四人「レツツプレイ！プリキュア・モジュレーション！

メロディ「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

リズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」

ビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

ミューズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

四人「届け、4人の組曲！スイートプリキュア！」

名乗り上げてポーズを決める4人！

サイガ「来い！！俺様が相手してやる！！」

プリキュア達はすぐに飛び出しサイガに攻撃を開始する！！

四人「はああああ！！！！！！」

サイガ「ぐおおお！！！！！！」

ガイア「今の内に！！！！うおおおおお！！！！！！！！！！」

ガイアは腕をクロスさせ体から聖なる光を出し二人を浄化してノイズの闇から完全に解放する！！そしてこの2人はその場に倒れた！！
バストラ「後は…任せた…」

2人は意識を失う。

ガイア「ああ！！任せる…行くぜ！！」

そう言つてファルセットに向かって走り渾身のパンチを放つ！！

ガイア「ジュワアアアアア！！！！！！！！」

サイガは吹き飛ばされながらもフライングアタッカーを起動させ反撃する！！

サイガ「まとめて殺してやる!!!うおおおおお!!!!!!」

【ズガガガガガガガ!!!!!!】

怒りの攻撃があちこちに飛び散りかなりヤバイ状況になってしまった!!!

メロディ「これじゃあ近寄れないわ!!!」

メロディたちは直ぐに建物の裏に非難した為無事だった。

ガイアもすぐにウルトラバリアーを張って防御した為何とか無事だった。

ガイア【しよがねえ!!!一気に決めて…】

とその時!!!

【ズドン!!!】

一発の弾丸がサイガに命中しサイガは打ち落とされてしまった!!!リズム「え?」

サイガは地面に叩きつけられて怒鳴る!!!

サイガ「誰だ!!!」

弾丸が放たれた方角を全員見ると、そこには警察の勲章が入った青いメカのスーツを装備した人物がグレネードランチャー…いやGG

-02 サラマンダーを構えていた。

そう打ち落としたのは仮面ライダーG3だったのだ!!!

G3「警察だ!!!大人しくしろ!!!ファルセット!!!」

続く!!!

近づく決戦！！狙われるキュアマジューレ？驚く真実！！（後書き）

次回はアコママが！！救出作戦とまたゲストライダーです。

狼「誰？」

秘密です！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5138y/>

劇場版！仮面ライダーキバ/ファイズ!ウルトラマンガイア!!スイートプリキュア

2011年12月18日09時54分発行